宮崎医大整形外科

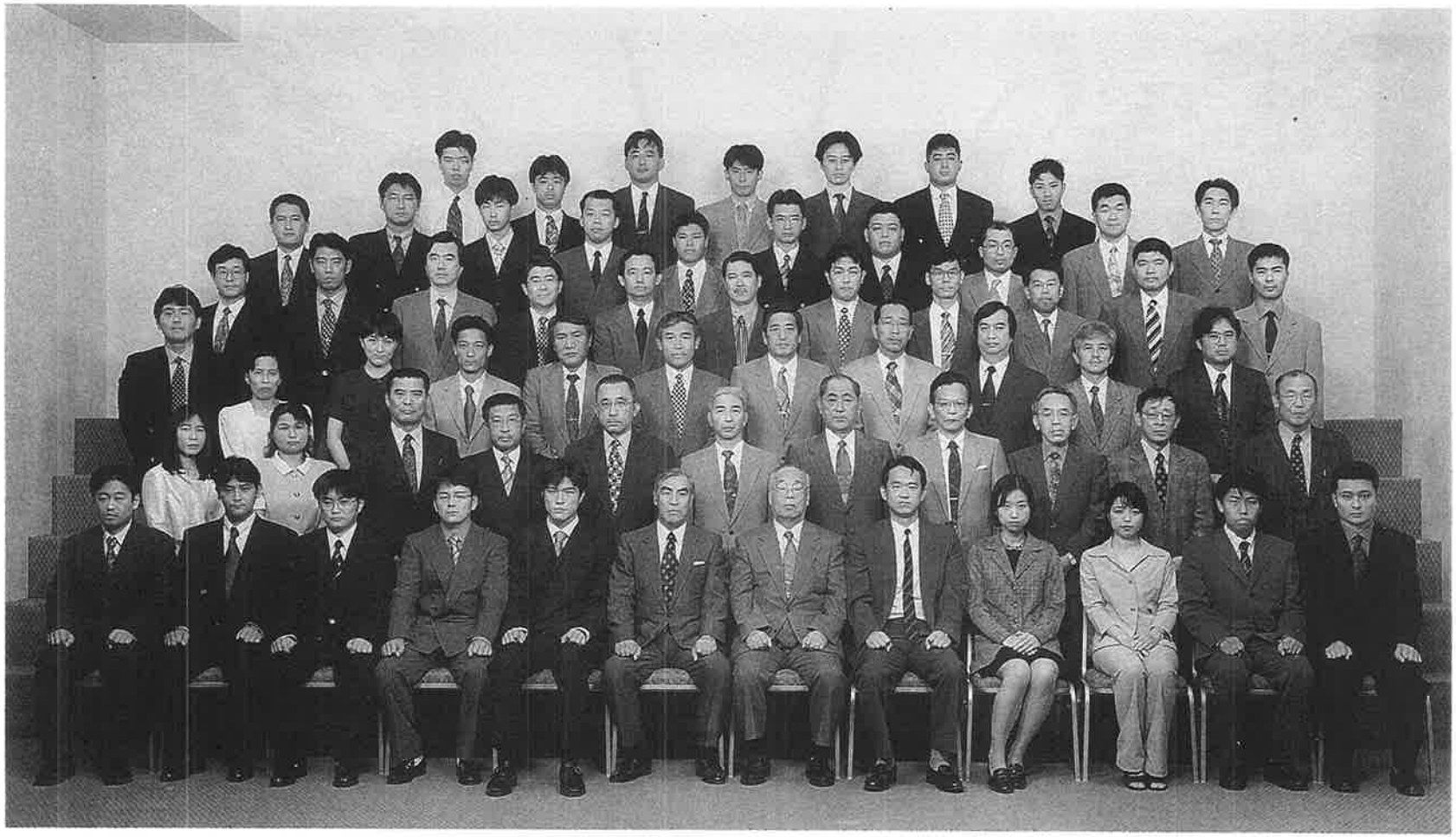
同門会誌

第　10　号

平成10年12月

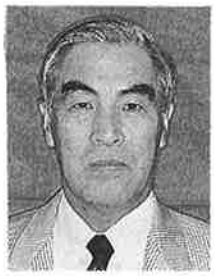
宮崎医科大学整形外科学教室同門会

宮崎医科大学整形外科学教室同門会総会　　平成10年11月28日　於：ホテル神田橋



平成10年度宮崎医科大学整形外科学教室新入教室員歓迎会　　平成10年6月6日　於：宮崎観光ホテル

巻　頭　言



教授　田　島　直　也

宮崎医大整形外科同門会誌第10号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年度は新入医局員が10人あり、これで同門会員も正会員116人、賛助会員37人となり、10年前と比較しても大所帯になりました。教室の果たす役割、教室への期待を考えると責任の重さを痛感しています。

今度は同門会からは伊勢紘平先生がNTT九州病院の院長に昇格され、同門会長の河野雅行先生が宮崎県医師会常任理事に就任され、今後のご活躍を期待したいと思います。

教室では、帖佐講師に助教授に昇任してもらいました。今後さらに教室のために尽力してくれるものと期待しています。

現在、鳥取部君、黒木浩史君がアメリカ留学中であります。今後も国内国外と交換を盛んにして、活性化をはかっていきたいと思っています。

今年は11月に教室主催で第25回日本臨床バイオメカニクス学会、第6回日本腰痛研究会を予定しています。

バイオメカニクスの研究は教室の研究の柱の1つにしていますが、万能試験機、有限要素法による研究に加え、今度リハビリの部門に三次元動作解析装置一式が入り、設備面では少しずつ充実してきたのではないかと思っています。地方の大学では研究分野もある程度絞ってやる必要があります。

さて、今月の新聞では医学部の定員削減が取り上げられていました。学内でも話題になっていますが、本学も10名程度学生定員が、削減されそうです。現在卒業生も本学に残る人は約半分くらいです。今後は医師も量より質の時代になり、21世紀に向け医師個人に求められる期待も大きく、教室としても研究と共に良医育成が大きな目的であります。

整形外科医の全医師数に占める割合は、欧米に比べわが国は3倍強と言われて

います。これは外国の整形外科医はまさしく“外科医”でありますが、わが国では外科手術より保存的治療を占める割合が多く、特に一般開業の先生方は保存的治療を行うことが多いといわれています。わが国の整形外科は先人の努力により対象分野も広く、リウマチ、リハビリテーション、脊椎外科、手の外科、骨粗鬆症等を扱ってきましたが、最近他科でもこれらの分野にどんどん進出してきているのが現状であります。21世紀には患者が医師、医療機関を選ぶ時代になると思われますが、私たちはこれらの境界領域と考えられるところは尚しっかり勉強し、ここは整形外科の領域とはっきりさせる必要があると思います。

組織の活性化はトップの姿勢いかんとも言われています。私自身も原点にかえり頑張っていかねばと思っています。若い教室員が、大きな目標を持ち、たゆまなき努力により立派な整形外科医になってくれれば幸いであります。

今後とも同門の先生方の温かいご支援をお願い致します。

（平成10年8月盛夏）

会長
河野雅行

ごあいさつ

今年も世の中は騒がしい出来事の連続でした。よくもまあ次から次へと事件が起こるものだと感心します。その事件たるや誠に低次元で人間性を疑わせるものが多く、現状は我々の常識が通用し難い社会になったようですが、どのケースも徳育、倫理教育の充実で回避可能なものばかりです。戦後の歪曲した民主教育（自由奔放・無責任）のつけが回ってきたのかも知れません。もっとも民主主義本家本元の欧米でも低次元の事件で賑っていますので、全世界的な傾向のようでもあります。私達もここでもう一度日本古来の道徳思想を見直す必要があるかも知れません。多くのニュースが錯綜しておりますが、私達に特に関連深いのは不景気と緊急時の医療対策です。現在の状況を一種のチャンスと捕えて積極的に動くべきだという人々もいますが、私のような凡人レベルでの不景気対策としては歴史上の諸藩政改革を見倣って鋭意倹約に徹するしかないようです。危機時の医療対策は医師会を中心としたシステム作りを行ない、普段よりトレーニングをしておくことが肝要と考えます。しかしながら何時も不思議に思うのは世の中が不景気でも、情報産業と政界だけは関係ないようです。偏見かも知れませんが特に大事な情報のみが誰かに操作されているのではないかと疑われる面も多々あるようですが、如何でしょうか。あるいは一部の人達が騒いでいるように人類の滅亡が近づいているのかも知れません。

そのような中でも私達の同門会は堅い結束の基に、予定された活動も順調に消化し充実した1年が過ぎようとしております。誠に結構なことです。主な動向としましては、今年も例年通り多数の先生方が新しく入会されました。新賛助会員

の先生は経験豊富な方で私達の良きアドバイザーになっていただけるものと期待しております。新卒入会の先生方は例年通り皆様優秀な方々で、現在臨床研修に励んでいらっしゃるようです。さらに教室では田島教授、帖佐助教授の御指導のもとに研究・留学・学会発表・学会開催も継続して活発に行われており確実に実績を挙げられています。一方余暇の野球でも教室員一丸となった猛練習の成果が出て、他大学・教室の追随を許さず常勝状態で、勝ちの少ないチームからは羨望の的になっているようです。また教室での研究生活を終えられ、開業に就職にと飛躍される先生方も多々あると聞いております。教室の内外を問わず多角的・多方面で活躍されることは、同門会活動としては何れも有意義であり、会員同士で学問に仕事にスポーツにと、相互に協力し合う必要があると考えております。今後も皆様方の更なるご活躍を期待いたします。どのような活躍をするにしても最後の拠所は体力であり、健康だけが我々の換えがたい財産ですので、医師の務めとして患者さんの健康はもとより、まず皆様御自身の健康管理をお願いいたします。

目　　次

巻頭言 …… 教授　田島直也

御挨拶 …… 会長　河野雅行

特別寄稿

10年後の私 …… 玉井達二 …… 1

トイレの下駄 …… 木村千仭 …… 3

院長就任 …… 伊勢紘平 …… 4

随筆

近況報告 …… 池之上邦彦 …… 5

“River Runs Through It” …… 久保紳一郎 …… 6

君が代 in Nantes …… 樋口潤一 …… 8

長男誕生、そしてこの１年 …… 長田浩伸 …… 10

『カルテの書き方が解らない』研修医のために …… 金井純次 …… 12

開業

ある金曜日 …… 戸田勝 …… 13

留学記

アイオワ留学報告 …… 鳥取部光司 …… 14

Kansas University Medical Center留学報告 …… 黒木浩史 …… 16

関連病院紹介

宮崎社会保険病院 …… 田辺龍樹 …… 18

都農町立病院に赴任して３カ月　期待と苦悩？の日々 …… 尾田朋樹 …… 19

関東逓信病院麻酔科に来て …… 森治樹 …… 20

新入賛助会員

自己紹介 …… 古賀和美 …… 21

同門報告

同門会・役員会活動について幹事からのお知らせ …… 岡田光司 …… 22

医局長雑感

整形外科11年目 …… 柏木輝行 …… 24

西日本大会優勝＆３年連続全国大会出場決定！ …… 矢　野　浩　明 …… 26
西日本野球大会２軍４連覇達成 …… 松　岡　知　己 …… 28
学 会 報 告
第25回日本臨床バイオメカニクス学会を終えて …… 川　越　正　一 …… 30
第６回日本腰痛研究会始末記 …… 久　保　紳一郎 …… 32
診療班紹介
脊椎班の近況報告 …… 後　藤　啓　輔 …… 34
下肢班近況報告 …… 益　山　松　三 …… 35
上肢班について …… 川　越　正　一 …… 36
スポーツグループの現況 …… 園　田　典　生 …… 37
医局旅行 …… 河　野　　立 …… 38
新入会員自己紹介 …… 39
教室同門の研究業績 …… 45
編 集 後 記 …… 押　川　紘一郎 …… 76

特別寄稿

10年後の私

玉井達二

御無沙汰していますが、皆様お元気ですか。私も先日82歳になりましたが、「10年後の私」という題を選ばせていただきました。

私のような年になると、10年先のことは正に「神のみぞ知る」の感が強くなります。いや、これは誰でも同じかも知れません。

私は年々物忘れの名人になって来ましたし、耳も遠くなり補聴器のご厄介になっています。しかし、都合の良い事は覚えていたり聞えたり、都合の悪いときには忘れたり聞こえなかったりなど、コントロールするにはいいかも知れないと言い聞かせています。

独楽は回転していればこそ安定し、ジャイロスコープのようにしっかりとした方向を示すのでしょうが、私のように回転が悪くなりますと、フラフラと倒れてしまいます。

もともと回転の悪い私の頭は更に悪くなり、少し位油を差してもギシギシ音を立てるだけで、前進する用には立たず、新しいことを生み出す事などは、夢のまた夢と言うところです。

若い人々は躓いてトントントンとたたらを踏んでも、シャンと立って歩いて行きます。人生の躓きも若いときの特権。大きく育つ一つの肥料になるかも知れません。

しかし、私のような老人になると、全て鈍くなっておりますし、生気もありませんので、躓くと言うことは、即ち転倒と言うことになり、起き上がれなくなるかも知れません。「年はとりたくないものだ」とは良く言ったものだとつくづく思います。

さて、高齢社会の駆け足での到来。その上平均寿命は更に延長、世界一が続いていると報じられていますが、私共に様々な問題を提示しています。

私も昔は臨床医として患者さんのお手伝いをさせて頂き、私自身も宮崎におりましたときだけでも、ヘルペスに罹り、その後の神経痛に今も悩まされ、間質性肺炎で危篤と言われながらも命を取り止めて頂きましたので、患者さんの気持ちは少しは分かるかも知れません。

しかし、私は高齢の方々の心身の問題について、見たり聞いたりはして来ましたが、当然のことながら、自分が高齢者として人生を歩くのは全くはじめてですので、今になって、改めて切実な問題として考えさせられています。

私は今、特別養護老人ホームに入所しておられる方々や、デイサービスに来られる方々とお話する機会が多くあり、身につまされ、反省させられることが多く、特に私より年上の方々とお話をすると沢山なことを教えられ、考えさせられております。その方々の体験された苦労や悩みのみならず、生き方に学ぶ所があり、これは地域リハビリテーションに欠くことの出来ない、保健・医療・福祉の緊密な連携の基本の部

分であろうかと思い、もっと前から多くの方の色々なお話を聞いておけば良かったと後悔しています。

私が仮に10年後生きているとして、どの程度まで人々の心が、また、苦しみが分かるようになっているのか。そして、どういう生き方をしているのか。これも神様だけが知っておられることでしょう。

皆様のご健康とご活躍を心からお祈り致します。

「トイレの下駄」

木　村　千　仞

今春、某大学の祝事にお招きを受けた折、ゲストの衣笠選手（野球殿堂入り）より「野球人生」と題してのお話を聞いた。もともと私は野球をやらないでテレビ観戦派なので、くわしいことは判らないが面白く聞いた。プロ選手というのは、何百人かの候補者の中から数人しか1、2軍に入れないから、エリート中のエリートであり、選ばれるための練習も大変なものらしい。若い頃のある合宿で監督から大目玉を食った話である。「お前たちのトイレの下駄は皆出口に向いているが、心掛けが悪い。1、2秒を急いでいるのは用足しに入る者だ。出る者は、入る者のために履き易い方へ向けて並べろ！」とどなられたとのこと。言われれば当然だが、野球はチームワークのゲームであり、相手が受け易いようにボールを投げねば、敵が点を入れるわけで、この心配りが全ての生活の中に徹底してこそ優れたチームである。

我々の日常でも少人数だと躾が届いていても、なぜか集団となると崩れてしまう。困ったものである。

躾とは、身を美しくするもの、すなわち日常生活での行儀作法や生活習慣の型を身につけさせることである。私らの年代の者は、不幸な子供時代でスポーツは限られ、もっぱら武道がその代わりをしていたが、武道はすべて型が基本で身を美しくすべく訓練されて技を競ったものである。躾は押し付けだから子供の個性をゆがめるという現今の考え方は、とんでもないと思う。今の親には「伸び伸び」と「野放し」を間違ってないかと疑わしめる事柄が多いようにみえる。子供はわがままで野放図、学生達は講義中の私語が多く、一方静かなのは居眠りである。居眠りは吾々も経験したことはあるが、それ以外は厳しかった記憶がある。最近少年達の凶悪事件を聞くにつけ、色んな問題の中で親・先輩の躾の甘さが気になって仕方がない。

院長就任

伊勢紘平

本年4月1日よりNTT九州病院の院長として勤務しています。

かえりみてみますと私が今ここにこうしているのは平成5年1月に一緒について来てくれた工藤先生、その後を受け継いだ浪平先生、そして今殆んど一人で整形外科を背負ってくれている坂本先生たちのおかげだなと考えています。それに忘れてならないことは遠い宮崎から手術の時にかけつけてくれた先生達と、その先生達を派遣して頂いた田島教授をはじめとする医局の方々のお蔭と思っています。

院長に就任して3カ月が経ちました。今までは専門分野、唯整形外科の事のみを考えていればよかったのですが、内科・外科をはじめとする12科203ベッドの院長として、すべての分野に眼を開かなければなりません。従業員数もパート数まで入れますと約300弱の数になります。生来の怠惰な性格故とてもではありませんが頭がまわりません。副院長時代は昼行燈でいいと考えていましたので、その気分を抜かねばと思いながら、なかなか切り換えが出来ていない状況です。一ついい事は、院長がボーッとしていますと周囲の気の効いた人々が、よく動くようになり、これも一つの効用かな？と考えたりしています。

院長に就任してから変わった事は、いわゆる決裁文書をよくみるようになりました。赤字をかかえた病院の長としては「出を抑えて入を増やす」という事を考えねばなりませんので、当たり前の事かも知れません。私が与えられた命題はまず第一に赤字の解消→新しい病院の建設へ。次にいかに働きやすい病院へと変わるか。であると思っています。

赤字の額は書きませんが、開業している諸兄からみますと「えーッそんなに!!」という程あります。これは病院に勤務している人々の名誉の為に書きますが約10年前までは、職域病院であった為に稼ぐ事は考えなくていい体制だったのだろうと思います。今既に、民間病院として、稼ぐこと（こういう響きは悪いのですが）をしっかりと考えた人々の集まりとなって来ていますので、何年か先には、黒字になっている事と思います。（半分希望的観測が入っている？）次の働きやすい病院という考え方ですが、これは決してラクに過ごせるという意味ではありません。医師としてやりたい事（若い時は常にそうですが）、こういう事をしてみたい、ああいう事もしてみたいという願いがある筈です。その夢が実現出来るような病院にしてみたいと考えている今日此頃ですが、これらの事をする為に、同門の先生方の御協力をお願いしたいと思います。

遠い熊本ですが、こちらで頑張っている同門の先生方もいますので、何卒よろしく。暑くなりますが皆様の御活躍を期待しています。

（H10. 7月　伊勢　記）

E-mail:k-ise.SAKURA@gwa.kyushu.ntt.co.jp

随筆

近況報告

池之上　邦彦

開業以来、25年が過ぎました。毎日毎日、患者を診ることに追われ、その日その日を堕落のように過ごしています。これでは駄目だと気分をふるい立たせようとしています。その中で、私を喜ばせてくれるのはペットの犬である。

種類は、トイプードル。名前は、キャンディー。ペットと言うよりも家族の一員である。性格はおとなしく従順である。排泄は、自ら教えてくれる。その時は外に出して用をさせる。朝は7時頃起床して、夜は11時頃就寝する。

食事は私達と一緒で、腹が減ると自ら文句を言って早く食べさせてくれと要求する。夕方になると特に、4時頃から台所に行って要求している。

年齢は15歳で、人間で言えば90歳ぐらいになっている。その犬が、7月頃行方不明になった。家内は毎日のように探し歩いた。しかし、見つからない。新聞広告を出したり、チラシを出したりしたが、なかなか見つからなかった。

その犬が約1カ月後、10Km以上離れたところで見つかった。しかも、体力が弱っていた。腎不全を引き起こしていた。動物病院にて入院治療を行い最近ようやく元気になってきた。現在の生活は、昼寝と簡単な運動で毎日を過ごしている。

やっぱり犬でも、過激な環境の変化がストレスとなったのであろう。この環境の安定が長命の原因となっているのではないかと考えています。

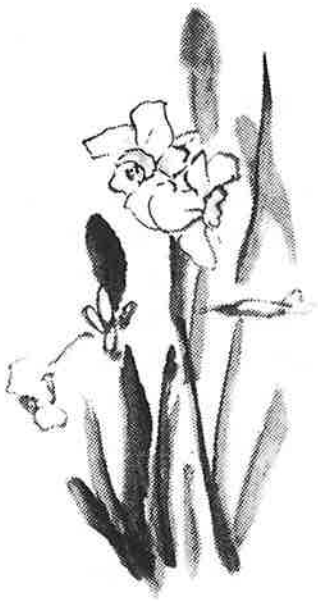
他愛もないペットの事を書きましたが、これが現在の私のストレス解消法である。

“River Runs Through It”

久　保　紳一郎

ブラッドピットの出演で有名となったこの映画は、独りの老人が川面に佇み震える手でパラシュートフライ（毛鈎）を結ぶ場面から始まったように記憶している。もはや生気を失いつつある表情の老人の胸中に若かりし頃の思い出が回想され物語は進んでゆく。子供の頃の父親の姿、ブラッドピット扮する弟の釣りの才能と魅力、そしてそのはかない死、など自然とともに過ごした青春時代が輝くように老人の記憶に蘇る。大学に進学し教授にまでなった主人公の頭に去来するものは決して名誉・権力・後悔などではなく、そこにあるのは無垢な自然とその中に息づく純粋な自分の昇華された記憶であり、人生を愛おしむかのように主人公は竿をふりつづける。そして夕暮れに反射する川の流れが画面一杯に広がり、観客が流れに吸い込まれるような錯覚に陥ろうとする瞬間、「…川は私の人生を通して悠久の流れを刻んでいる…私は川の虜である。（以上私的解釈）」という主人公の最後の言葉で観客は我に帰り、“it”の意味を理解する。終わりのテロップには「この映画では野生の鱒は一匹も殺してません」とさり気なく書かれ、つくづく自然派の心を満たしてやまない映画なのである。僕も子供の頃川釣りに夢中になったことがあったが、受験勉強・進学と要領よく生きることを学んだためかすっかり忘れていた。大学時代はバイク・写真・山登り・スキューバといろんな事に手を出したが就職とともに気が付くと熱中できるものを失っていた。ところが７年前熊本の多良木に赴任したとき渓流釣りに誘われ、たちまちその魅力に取り憑かれた。はじめはエノハ独特の鋭いアタリと美しさに惹かれ山奥を彷徨った。当たり前のことだが釣りをしても何の得にもならず実際に役立つ知識も何も得られない。唯人生の中の少々の時間とお金を使い自然の中に身を置きに行く。透き通った流れを歩きながら水の精のような魚達と遊び、岩や草や木を眺め永遠の時の流れを感じることによりいやがおうでもねじ曲がった価値観が修正される。自然の懐に抱かれると自分がひどく矮小なものに見えてきていつしか優しい気持ちになっている自分に気づく。釣れても釣れなくても得られるものの結果

は同じであり、且つその時の己によって毎回違うものでもある。誰でもある時期に人生の結末がちらほらと見えたように感ずる瞬間が来るが、そういうとき僕の場合無性に自然の中に身を置きたくなってくる。人生の夕暮れがせまった時に自分の頭に去来するものは果たして何か。願わくばまさに映画の主人公のようには自然の中で戯れた輝かしい記憶で満たされたいものである。現在の中高年の登山ブームも同様の心境なのだろうか。しかし悲しいかな最近は、当直に追われシーズン中も滅多に川に行けないため、もっぱらアパート内での水草水槽に自然の癒しを求めているようだ。とりあえず机上の釣行でもしながら川の虜でありつづけようと願うこの頃である。



君が代 in Nantes

樋　口　潤　一

4年に1度の世界最大のスポーツイベント、それはワールドカップ。今年はその世界最大のイベントが行われ、しかもそのお祭りにはじめて日本が参加させてもらう権利を獲得した記念すべき大会になった。私がはじめてリアルタイムでワールドカップに接したのが1978年アルゼンチン大会（当時中学3年生）。もう20年も前の話で、予選敗退を繰り返してきた日本がやっと世界の扉を開け、第一歩を記す大会を見に行くことが出来たので現場の雰囲気が出来るだけ伝わるように報告したいと思います。

今回の日本の相手は第1戦アルゼンチン、第2戦クロアチア、第3戦ジャマイカでグループリーグの勝負どころとなりそうなクロアチア戦に行きました。出発は6月18日（木曜日）、妻と息子に見送られ、宮崎（JAS）→福岡（KAL）→ソウル（KAL）→ブリュッセル（ベルギー）と飛行機で飛んで（福岡→ソウル、ソウル→ブリュッセルは大韓航空のチャーター便で、ほとんど日本人でした。またツアーの関係上ソウル―ブリュッセル間は喫煙席で、地獄のような時間を過ごすこととなりました。）、ブリュッセルからパリへはバスで入るという20数時間の長旅でパリに到着したのは18日の夜10時頃でした。

6月19日はナイジェリア対ブルガリアの試合を一人で見に行きましたが、ナイジェリアの躍動感あふれる面白いサッカーと、前回大会より4年経ち年をとったブルガリアの切れのなさが対照的な試合でした。また、この日の朝、クロアチア戦のチケットを手にしたときは、本当に明日会場内に入れるんだという事で、絶対無くさないようにそのチケットを一日肌身はなさずもって歩きました。翌20日は日本の試合の日で、朝9時にホテルを出発し（もちろんチケットを忘れないよう確認し）、バスでナントまでの移動となりました。約2時間でナントのボジョワール競技場に到着しましたが、すでに日本人を乗せたバスがかなりの数来ていました。バスを降りスタジアムの入口へ歩いていると、途中日本人と現地のダフ屋の交渉が行われていて「eight thousands」という声が聞こえてきました（1フランがこのころ約25円くらいだったので20万円）。このときほど、チケットがちゃんと手に入って良かったと思ったことはありませんでした。スタジアムの回りは日本人が多く6割ぐらいが日本人かなと思えるくらい日本人であふれていました（自分たちも日本人ですが）。スタジアム内は非常にきれいで、席はバックスタンドの中段（点数を入れられた側の反対側のゴール裏）で、ピッチ全体が見渡せ、また屋根に反響した日本の応援（歌や手拍子）が頭の上からおおい被さってくるようで非常に雰囲気のいい中での試合観戦（応援）になりました。試合開始前の国歌演奏ではスタジアム全体に響きわたる君が代の

斉唱に感動して一緒に歌っていました（こういう場所での君が代のメロディーは非常に荘厳で感動ものです）。ワールドカップ予選の期間中試合前の君が代を聴いているとき（テレビで）、今日の試合はどうなるだろうと緊張しながら聞いていた君が代に比べ、本大会の試合場で聞く君が代はどちらかというとワクワクしながら聞けたような気がします（特にイラン戦の試合前の君が代に比べると）。外国でこんなに大勢の日本人が一斉に君が代を歌うことなど滅多にない経験でしょう。試合の方は、残念ながら後半にスーケルにゴールを決められ0－1で負けてしまい、また試合中のポジショニングや選手交代などその場で見ていてもウーンと考えさせられる場面もありましたが、終わってみるとはじめての世界の舞台での日本のプレーを現場で見れた感激でいっぱいでした。またこの日は非常に暑い日で30度を超す気温と暑い日差しで、フランスに来て日焼けをするとは思ってもみませんでした。

試合後はスタジアムを出てバスへ向かう途中でクロアチアのサポーターと一緒に写真を撮ったり健闘をたたえあったりしました。

6月22日、帰りはパリからブリュッセルまでバスで移動し、ブリュッセルで大韓航空のチャーター便でソウルまで移動し（帰りはすべて禁煙席でした）、ソウル―福岡、福岡―宮崎と2度のトランジットの末やっと宮崎に帰ってきたのは6月23日（月曜日）のお昼でした。

今回、快く許可を下さった田島先生、柏木医局長、スポーツグループの園田先生と河野、松岡、深野木先生、どうもありがとうございました。（次は2002年、日本での開催なので今回のように移動で苦労することはないでしょうけど…）

PS．残念ながら日の丸は持って行ってませんでした。

長男誕生、そしてこの1年

長　田　浩　伸

平成9年9月13日、長男京介は母親の郷里えびのにて誕生しました。この1年を振り返れば、行事、儀式の多いこと。これからの方に参考になればと書き留めてみました。

第1ハードル：誕生

父親は読みがはずれて当直にて不在、スタートより情の薄い印象を与えてしまった。初産は遅れることが多く、その辺を考慮しての当直等のスケジュール調整が必要。

第2ハードル：命名

響きのよさだけできめたが、親類縁者には字画、訓れを気にする者もあり、その点全く考慮しておらず不評を買う。出生届けは14日以内に提出が必要。

第3ハードル：宮参り

近くの神社にお参りした。土地の守り神である産土神にお参りし、氏子の一員として認めてもらうという、鎌倉時代よりの風習。男の子の場合生後31日目。子供の服装は内着、掛け着が必要で、これは母方が準備する。子供を抱く人も決まっているがこれは忘れた。以上父親は知るはずもなかったが、おじいちゃんに世間知らずと叱咤された。

第4ハードル：名付け

親類縁者を集め、子供の名前を披露するもの。正式には出産後7日目に行うものらしいが、我が家の場合2カ月後だった。命名法も色々あるらしい。

第5ハードル：お食い初め

そろそろ歯が生えるほどまでに成長したことを祝うと同時に、一生食べるものに困らないようにと願う行事。生後100日目から120日目。食べさせる役目の人も決まっているらしいが、今回は父親が大役を仰せつかった。祝い膳は型どうり、お赤飯、鯛の尾頭付きが用意された。また「色直し」といって、色物の晴れ着がいるらしいが、我が家ではミッキーマウスの涎掛けで代用した。

第6ハードル：初節句

親類縁者を集め、子供の成長を披露するもの。武者人形、鯉のぼり等頂物を披露する場所を用意するのが大変。我が家の場合、おじいちゃんが大活躍し、のぼり竿を作ってくれ、1カ月にわたって幟の上げ下げをしてくれた。感謝、感謝。

第7ハードル：餅踏み

そろそろつかまり立ちをするぐらいに成長したことを祝う行事らしい。1歳の誕生日に草履を

履かせて祝い餅を踏ませた。この餅を親類縁者に配らねばならないらしいが、ここでもおじいちゃんが大活躍。またもや感謝、感謝。同日、子供の前に「算盤」「筆」を並べ、どれを選ぶかで行く末を占うらしい。京介は迷い無く筆を選び、筆上手になるはずだが、両親共に字がへたなため、にわかには信じがたい。

振り返れば、節目節目に我が子の成長を祝う行事があり、往時の子供を育てる難しさが想われる。今に生を受けたことを親子共々良かったと思い、今日まで支えてくださった方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

『カルテの書き方が解らない』研修医のために

金　井　純　次

そもそも、整形外科医なるものは関節の可動域の改善には精魂傾けるが、カルテ記載となると、てんでだらしなくなる（中には、非常に丁寧に記載される先生もおられるが…）。

たまに後輩のカルテをチェックすると、毎日関節の角度は書いてあるが、患者の全身状態については一言もなく、数字の羅列だけで見ても面白くもない。後輩に尋ねると『何を書いたらよいのか解らない』とのたまう。そう言う私も、いつの間にか部下ができ、病棟を回って患者と接する機会が減る毎に、カルテの空白が目立ってきた。そこで、自戒の意味も込め、『カルテを書くための極意』を書くことに…。

その1、先輩のカルテを盗み見るべし！

私が研修医の頃、木村元教授や桑原元助教授の外来で陪席に着いたとき、診察所見をドイツ語でペラペラ（？）と言われるのに、ちんぷんかんぷんであった（桑原先生のは、カルテに書いた字を見ても、ちんぷんかんぷんであったが）。患者の前で聞き直すこともできず、その場は、聞こえた通りにローマ字でカルテに記載し、後でドイツ語辞書を一生懸命めくったものです（ちなみに、最初に覚えたドイツ語は“sch○○○”で、後で辞書を引いてみて、患者にこういうことが言える先生がいたと、おそれ【恐れ？・畏れ？】おののいたものです）。そんなこんなで、今では自分が、わずかなvocabularyを駆使してカルテに一部ドイツ語で記載している（時代遅れと言われそう）が、若い先生はその内容を理解しているとは思えない。また記載内容の質問もない。ということは、人（先輩）のカルテを見ていない。調べていない、まねしない。これが、自分で書けない第1の問題点。

その2、患者の所へ頻繁に足を運ぶべし！

若い頃、ろくな診療技術も持たないペーペーの頃は、受け持ち患者の所へしょっちゅう行き、少しでも長く話を聞き、患者の情報を得ることが上司への唯一の対抗手段です（カルテを見ると患者の職業さえ知らない主治医がいる）。そこで、視て、聴いて、触って得られた情報をなんでもよいから書けばよい。整形外科医だからといって、四肢の可動域や関節痛のことばかり書くのではなく、腹部症状だって、患者からの訴えがあれば、記録し、自分の頭を捻り、参考書をめくって自分の考え（診断）を書く。間違った診断名でも、一応許そう。自信が無ければ専門医に相談すればよい（手遅れにならない内に）。とにかく、自分の五感で得た情報を、自分なりに考え記録することが大切。

追伸1：（ ）の注釈が多くてすみません。本当はこっちを書きたかったのです。

追伸2：若い医者とは、野中先生を指しているのではありません。内…、若くないか？

ある金曜日

戸田　勝

今、金曜の午前中でこの原稿と格闘しています。診察時間なのになぜか時間があるのです。何を書こうか、おもしろくないといけないだろうし、まず、思いついたのが開業医と勤務医の比較。しかし、まだ開業して1年もたってないのに何がわかるものかという声が聞こえてきそうでやめにしました。次に思いついたのが、自分に関係の深い数字です。僕は5の倍数と縁があるようで、昭和30年10月20日生で大学は昭和55年卒、開業も平成10年だし、しかしここで止まってしまった。さあ何を書こうか、やはり好きなゴルフしかないのかと思いつつも、これも人様に言えるような代物ではないなあと思ってしまった。そうだ、最近の話題と言えば、新聞に自分の名前がのったのです。これについて、書こうと思います。

当院でも、BGMを流しております。開院前、先輩のY先生の経験談をお聞きして歌詞のあるものはやめることにしました。僕は、歌詞のない音楽は不得意ですので、妻君と相談するとクラシックがよいということになりました。患者さんにも評判よく、とくに理療の患者さんたちは、ほとんどの人が眼を閉じて鑑賞されているようです。また、妻君は、音楽療法というジャンルに興味があり、時々、講演とかを聞きに行って勉強しているようですが、その関係か、“癒しの音楽”をやっている音楽家の人のコンサートが清武であるので、診療所の待合室でCDによるミニコンサートを開きたいがどうかと妻君が聞くので、診療が終わってからならばよいのではと答えておりました。

僕は、その当日は別の用事で不在でしたので、CDコンサートの事は、忘れておりました。つい先日、患者さんが、先生、今日の新聞に先生の事が出てますよ、と言われ、何のことだろうと新聞をみてみました。ダニエル・コビアルカというバイオリニストのコンサートの記事で、何とその中でこの人のファンである戸田整形外科院長戸田勝（いつファンになってしまったのか、よくわからない）の医院にて、CDコンサートを行ったと書いてありました。おそらく、新聞記者が、癒しの音楽とCDコンサートの会場となった当医院をかけて、私をファンにしたてたのでしょう。場所を提供したお礼とかで、「星に願いを」というコビアルカ氏のCDを頂き、当院のBGMの一つとなっております。もうこれでそろそろ原稿のノルマは達成したかと思います。

最後に、これまでは勤務医として、皆様に色々とお世話になってきましたが、これからは、開業医として、第一歩をふみ出したばかりです。今後ともよろしくお願いいたします。

留学記

アイオワ留学報告

鳥取部　光　司

まず始めに、留学の機会を与えて頂きました田島教授ならびに同門の先生方に心から御礼申し上げます。また、留学に際しまして、医局員の皆様に多大な御迷惑をおかけいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

さて、私は、平成10年4月より9月まで、田島教授の御推薦を頂き、アメリカのアイオワ大学バイオメディカルエンジニアリングに留学させていただきました。主任教授は今年の日本整形外科学会学術集会でも講演されました脊椎バイオメカニクスで非常に有名なGoel教授です。

渡米直後より、研究員として、他のアメリカ人スタッフと同じように、実験に参加させていただきました。実験の一例を挙げますと、朝7時に集合し、脊椎実験体の屈曲・伸展・側屈・回旋の動態試験を行い、次に整形外科または脳外科医による椎間板切除後の動態試験、その後instrumentation で固定し、再度試験を行い、さらに万能試験機による疲労試験、最後に再び動態を測定して終了するというものです。このような、実験が平均週1回ほど施行されていました。また、Goel教授は、整形外科の教授もかねておられて、脊椎の手術などの研修も可能でした。

アイオワでの私自身の研究は、有限要素法を用いて脊椎モデルを作成することでした。コンピューター室には、コンピューターが50台程並べられており、CPU を16個搭載しているとのことで、有限要素法のプログラムは、非常に軽快に解析を行うことが可能でした。しかし、モデル作成は大変時間のかかる作業のため、毎日深夜までの作業が続き（12時過ぎると駐車係り員が帰るため、駐車代金を払わなくてすむのも理由の一つです）、土日休日も取れず、時間的余裕のない大変多忙な毎日を送りました。その甲斐あって、部分的なモデルを完成させることができ、Goel教授に提出したところ、大変喜んでいただきました。

医学部附属図書館は、地下2階から地上4階まである巨大な建物で、文献検索は、無料で使用および印刷することが可能で、また検索結果には、図書館の保有・無が表示されており大変便利でした。必要な文献のほとんどは図書館にあり、もし無い場合には、無料で取り寄せてもらえました。また、通常夜中の12時まで開館しており、閉館まで活気にあふれ、学生の試験中は夜中2時まで開いているという非常に勉強するための環境が整っていました。

私が在住したアイオワシティは大学を中心とした小さな町です。学部がそれぞれ広大な敷地に建てられていて、Cambus（キャンバス）という学生が運転するバスが、全学部の交通手段として走っていました。一般市民も無料で乗車でき、市内も循環しているので降りたいバス停で

紐を引けば自由に降りることができるという非常に親切で住みやすいところでした。アイオワのアメリカ人の印象は、非常にfriendlyで、kindlyであり、気軽に声をかけてきてくれることでした。一度、私のアパートの前で車のキーの閉じこみをしてしまった際、家にも入れずどうしようもなく、困っていたところ、学生が、親切に自分の部屋から針金を持ってきてくれて開けてくれようとしてくれたことがありました。無理だと分かると、開けるにはAAA（日本でのJAF）か警察を呼ぶしかないが、AAAは有料だが、警察はfreeだということで、警察に電話をしてくれました。アメリカの警察も親しみやすく、親切で、警察官は、気持ちよくノコギリみたいなもので開けてくれました。（「No problem」と言って帰っていきました）

アイオワ大学留学案内には、気候に関して、夏は30度、冬は－30度に達し、トルネードには注意と記載してありました。私の過ごしていた夏の間は、暑かったですが、乾燥しているため、宮崎と比較すると避暑地に近いくらいでした。トルネードに関してはまったく予備知識も無かったため、実際にトルネードがアイオワの近くで発生した時には本当に驚きました。日中にもかかわらず、1時間ぐらいで空も景色も真っ暗になり、「トルネードがIowa City から4マイルに近づいている」という情報がラジオで流されると、みんなであわただしく大学ビルの地下室に避難しました。まもなく停電し、ものすごい雨とともに30分ぐらい強風が吹き荒れた後、徐々に日が照ってきました。外に出てみると非常に気温が下がっており、かなりの木が倒れていました。停電のため、真っ暗で仕事にならないため帰宅しましたが、信号機も何もかも作動しないため、街の中はパニック状態で、夜中まで不安な時間を過ごしました。幸い、私には、貴重な体験となりました。

今振り返るといろいろなことがありました。

来年、1月より7月まで、終わらなかった脊椎モデルを作成するため、再びアイオワに留学させていただくことになりました。皆様には本当にご迷惑をおかけしますが、なにとぞお許し下さい。

留学で学んできたことを今後の臨床・研究に役立てたいと思っています。

以上を私のアメリカ留学の報告とさせていただきます。

Goel 教授御夫婦との送別会にて

Kansas University Medical Center留学報告

宮崎医科大学整形外科　黒　木　浩　史

平成10年5月から10月までの6カ月間、アメリカのKansas CityにあるKansas University Medical Centerに留学する機会を与えて頂きましたので御報告申し上げます。

Kansas University Medical Centerはアメリカの臍とも言うべきKansas CityのKansas州側に位置し（Kansas CityはKansas州とMissouri州の両州にまたがっている）、卒業生には、spinal instrumentation開発の先駆者であるPaul Harrington教授がおられ学内にはその業績を讃える記念館もありました。Kansas Cityは全米でも観光客が少ない都市の一つらしく、New YorkやSan Franciscoなどの大都市と違い滞在中、街で日本人を見掛けることもまた日本の情報を得る術も殆どなく、寂しいながらも真のアメリカ生活を送る事ができました。

私がお世話になりましたのは、脊柱変形を御専門とされるMarc A. Asher教授で、先生は、ISOLA spinal instrumentation systemの開発を行ったり、昨年のScoliosis Research Societyの会長を務められるなど脊椎外科では世界的に御高名な方であります。それ故私の他にも世界各国から手術見学、リサーチに多くのゲストを迎えておられました。先生のお人柄は非常に他人思いでまたあれだけの業績にも関わらず大変謙虚であり英語が上手く話せない私に対してもとても親切に接して下さいました。また62歳とは思えぬ程、エネルギッシュで若々しく何事にも積極的に取り組んでおられました。

私はAsher先生の手術、外来を見学させて頂き、脊柱変形の診断、治療を中心に勉強致しました。先生の週間のスケジュールは、基本的に月、水が手術日、火、木が外来日、金が研究日（状況次第で手術や外来を行う）で、ほぼ終日診療に従事され大変充実した研修生活でありました。その他、殆ど毎朝staff doctorのresidentへの講義、journalの抄読会、spine conferenceのいずれかが行われていましたので、午前6：30から7：00には病院に行きそれらに参加することで整形外科全般の学習もする事ができました。

手術に関しましては、脊柱変形の矯正法、固定法、固定範囲など緻密な術前計画を立て、それと寸分違わぬ手術を常にスムーズに行われることが大変印象的で、instrumentを自由に操り思うがままに変形を矯正しておられました。また15時間程の長い手術でも僅か1人のresidentを相手に2人で最初から最後まで妥協することなく疲れを見せずに行っていらっしゃったのは大変な驚きでした。半年間で約40例程の矯正固定術を見学致しましたが全例ほぼ完璧な矯正、balance、alignmentが得られていました。

外来診療では、一人一人の患者さんの診察に十分な時間を取り、自分で全ての診察、X線計測を行い大変正確な臨床データを取られていまし

た。またX線検査を必要最小限に抑えるため表面計測を非常に詳細に行い適格な状況判断を行っていること、理論的に装具を作成処方していること、患者さん個々の問題点、疾患の特徴を慎重に分析し手術を計画していることがとても勉強になりました。

私は約4年間、脊椎グループに属し何例か側弯症の患者さんを受け持つこともありましたが、今回の留学で余りの自分の無知さを恥じると同時に世界の側弯症治療のレベルの高さを実感し、それに少しでも近づかねばならない事を身に染みて感じました。

それからアメリカ滞在中、International Research Society of Spinal Deformities (IRSSD)、Scoliosis Research Society (SRS)、North American Spine Society (NASS) の3つの学会に参加することができました。IRSSDは6月末から7月初めにかけてVermont州のBurlingtonで開催され、当教室からも久保、後藤先生が来られ演題発表を行いました。その演題に関しAsher先生も私に質問をされ多少とも興味を持って頂いていたようです。SRSは演題採用率が非常に低く世界でもかなりレベルの高い学会であります。今年は9月半ばにNew Yorkで催され、側弯症を初めとする脊柱変形の最新の基礎研究から手術の長期成績まで素晴らしい発表の連続でした。またNASSは10月末にSan Franciscoで行われ、人工椎間板らしきものの臨床応用、BMPの臨床応用、脊柱alignmentの重要性、現在米国で非常に多く施行されているinterbody fusion cageの臨床成績、問題点など日本ではまだ余り見かけないようなデータが世界各国から報告されていました。いずれの学会にも日本からも素晴らしい発表がありましたが数的には非常に少ないものでした。日本であれだけ学会、研究会があるにも関わらず世界に通用するものは僅か数題であり、日本の学会の質の低さをまじまじと見せつけられた思いがしました。世界に日本をもっとアピールするには学会の淘汰、質の向上が早急に必要だと強く感じました。

それから話しは大きく変わりますが、Kansas CityにはKansasCity Royalsという Major League Baseball Teamがありましたので当教室の柱の1つである野球の勉強も兼ねて5試合程観戦に行きました。Kansas City Royalsは地区で4位、New York Yankeesに屈辱の10戦全敗を帰するなど弱小球団ではありましたが、Major Leaue Baseballの日本人離れしたパワー、スピードには度胆を抜かれました。それと同時に一つ一つのプレーを非常に大切にし全力で行っている姿、ダイナミックかつ緻密な戦略は大変参考になりました。野球部が日整会野球大会で優勝できるようそちらの方面でも上手くアドバイスできればと思います。

長くて短い6カ月間でしたが、私自身、精一杯世界最先端の脊柱変形治療を勉強してきたつもりです。大きい事はできませんがこの6カ月間が無駄にならないよう学んできたことを少しずつでも教室に還元し、患者さんのために役立てていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さいました田島教授をはじめ教室員の方々に心より感謝致しますと同時に、御援助賜りました同門会会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

宮崎社会保険病院

田　辺　龍　樹

当病院は昭和30年11月に肺結核外科療法の専門病院として内科、外科の2診療科で開院以来、今年で43年目を迎えます。本年よりネーミングを宮崎社会保険病院と改めましたが、同門の先生方には江南病院の方が耳になじみのある響きだと思います。我が教室からは昭和62年7月より教室員を派遣するようになっています。ちなみに最初は現在小林市で御開業されている立山先生が初代派遣医です。当時はちょうど私が教室に入局した頃で、週に1日ずつ研修医が手術の足持ちの手伝いに行っており、非常に手術の多い（とくに外傷手術が多かった）病院だなと思った記憶と、故上塚副院長の鋭い眼光と手術前のセレモニーの記憶が残っております。

以来教室の発展とともに常勤医も増え、現在矢野、黒沢、有住そして私の4人体制で日々の診療を行っています。現在70余りの病床がほぼ満床の状態であり、大学病院、近郊の関連病院、および開業の先生方より入院の紹介を受けますと、誰かを退院させてベッドを工面する自転車操業的なやりくりをしています。これに関しては同門の先生方には多大なご迷惑をおかけすることも度々で非常に申し訳なく思っております。今後とも広いお心をもってお許し下さい。

手術に関しては、戸田前部長のながれをくみ矢野先生が手の外科を中心に、黒沢、有住両先生にはそれぞれ手術症例を振り分けております。

手術症例はやはり外傷症例が多く、ほぼ毎日1～2例ずつこなしております。赴任して10カ月の現在、私は少しずつ腰の手術にとりかかったところでまだまだこれからの状態であり、少しずつスタッフの充実にむけ前進していきたいと思っております。

本年11月より老健施設サンビュー宮崎が開設となり高齢者の転院先の心配が幾分かは減りそうですが、同時に老健の仕事も兼任しなければいけなくなりそうで、仕事量は増えることが予想されます。その分他の3人の先生にもしわよせがくるのではと危惧しております。

私も含め経験未熟な者の集まりですので、今後とも同門の先生方のご助言、ご忠告のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に当院の外来分担表は次のとおりです。ご紹介のおりの参考にしていただけたら幸いです。

	月	火	水	木	金
1診	田辺	矢野	田辺	田辺	田辺
2診	矢野	黒沢	有住	矢野	黒沢

都農町立病院に赴任して３カ月
期待と苦悩？の日々

尾　田　朋　樹

私が都農町の土を踏んで既に3カ月、今回は都農町立病院の紹介と、現在までの経過を多少のフィクションを加え報告したいと思います。病床数は全科で50床（加えて感染病床が数床ありますが現在は稼動していません。）医師の体制は常勤で院長先生を含む外科2名、内科2名、放射線科1名、整形外科1名（私）の計6名、そして週3回、非常勤で小児科の先生が診療に当たっています。

私が赴任するまでは、毎週水曜日が整形外科の診療日（宮医大からの派遣）であり、そのため患者さんが水曜日に集中する傾向が顕著で、私は赴任当初整形遊撃隊として主に医局での待機任務についておりました。しかしながら最近は都農町立病院整形外科の存在が少しずつ噂（？）となり前線で活躍する機会が増えてきました。本国（都農町）の本隊（病院）からの援護射撃も強力で豊富な補給物資（X線テレビ装置～Cアームとも言う～、牽引手術台、コマンド2ワイヤードライバー、諸々の手術用器具、etc…）に支えられ、着々と体制を整えつつあります。

ただ残念ながら知名度の低さゆえか、努力不足からなのか電撃作戦命令（手術症例）が片手にも及ばず、これからを期待しつつも一抹の不安を感じている今日この頃です。

派手な活躍はありませんが、柏木大隊長の指令（①次世代への橋渡し、②前線の環境整備、地

固め、③適度な活躍）を遂行すべく日々努力して（？）います。

話は変わりますが、都農町は日向市まで車で約30分の距離にあり、また近くに国立療養所宮崎病院をはじめ同門の先生方の個人病院もあり、医療環境は比較的恵まれている地域です。都農町立病院整形外科の歴史はまだ始まったばかりですが、最初が肝心！地域住民に好意を持って迎えられるように日々努力しています。都農町立病院は今後更に発展する資質を備えており、そのためには皆様の御理解、御協力が必要です。私の後に続く先生方も含め、何卒御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に…言い忘れましたが都農町の印象を一言でいうならば、やはりウニとワインの町でしょう。

（H10年10月現在）

関東逓信病院麻酔科に来て

森　　治　樹

私は7月1日付けで関東逓信病院麻酔科の非常勤医師として働いています。

関東逓信病院は品川区五反田にあり、住まいは病院から自転車で十五分の荏原という所です。すぐ近くに商店街があるので買い物もしやすく、夜も静かで住みやすい所です。また渋谷や新宿にも銀座方面にも比較的近く、便利な所です。

私は3年目の医師で、諸先輩の先生方よりも早い時期に麻酔の研修を受けることになったのですが、薬の使い方や全身管理等を早い時期に勉強することができ、非常に良かったと思います。

東京での生活は、物価が高い、水道水が飲めない、車に乗れない（駐車場代が高いので宮崎に置いてきたため）等、不満な点もありますが、休日にはショッピングに行ったり、遊びに行ったりしており、全体的には楽しく過ごしています。

さて、病院についてですが、週休2日で、仕事は、日によって手術件数にばらつきがあり、忙しい日とそうでない日がありますが、無茶苦茶忙しいという事はありません。夏休みも1週間取れました。

メンバーは、私も含めてレジデントが7人、スタッフが7人、合計14人です。レジテントの内訳は、東大から2人、横浜市立大から2人、関逓のレジデントが2人で、私と東大の2人は、7月から半年間の研修ですが、他の4人は研修時期や期間が異なるので、月によってメンバーが変わります。他の6人は全員、2年目以下の研修医ですが、楽しくやっています。スタッフの先生方とは、よく怒られもしますが、仲良くやっており、医局の雰囲気は結構良いと思います。

最後に、今後麻酔科研修を希望している諸先生方へ。

関逓の麻酔科に関して、給与の面、家賃の面、東京は宮崎から遠距離である事等、マイナスな面もありますが、私の印象としては来てみて良かったと思っているので、積極的に希望してみて下さい。

自　己　紹　介

同心会　古賀総合病院
古　賀　和　美

私は昭和49年に鹿児島大学医学部を卒業しました。桜島の灰に耐えかね、また、学生時代の怠惰な生活を洗い流すべく卒業と同時に上京し、三井記念病院の外科に入局しました。卒後5年間の研修課程が細かくかつ具体的に決められている事が魅力でした。この病院の外科では毎年4人のレジデントを採用しますが、4人のうち2人は東大から、残りの2人は必ず他大学から採用し、医局の活性化を図っていました。4人のうち競争に勝ち残った2人が、チーフレジデントに選ばれる訳ですが、競争に勝つためには馬車馬のように働く事、プライベイトな時間は一切ない事を覚悟すること、すなわち家庭は一切かえりみないこと、子供によそのおじさんと呼ばれても意に介さないこと、そしてカンファレンスの討論には絶対負けないように勉強すること、先輩や上司の手術テクニックを盗み見てひそかに練習すること等々を学んで運よくチーフレジデントまで勤めて、外科医として最も大事な初期教育を終えました。その後、縁あって埼玉医科大学第一外科に移りました。この頃から都内の実績のある施設に頻回に手術見学に行き、それらを参考にしながら自分自身の手術手技・スタイルを確立してゆきました。若い医局員の指導や、学生の講議もしましたが、私には学会活動と自分の行う手術にしか関心はありませんでした。術後管理のためにICUで夜も眠らずに働きましたが、それは患者さんの命を守るというよりは、自分の手術成績向上のためでありました。私も当時は若く体力もあったのでしょう。今も昔も若者と呼ばれる者はほとんど同時に馬鹿者であります。学会で名を売って、一家をかまえてやろうなどと、つまらぬ夢も見ておりましたが、やがて手術術式をめぐって主任教授と対立するようになり、また、父の現役引退を機に帰省しました。私の夢はいとも簡単にあっさりと雲散霧消した訳であります。以来、今は病院経営に従事していますが、また、同時に趣味の釣りにも精を出しております。16世紀の頃の英国でクロムウェルが起した清教徒革命のさなか、釣り好きの貧乏貴族ウォールトンによって書かれた『釣魚大全』の中に"Study to be quiet"という事が書かれております。静かなる事を学べ、あるいは静かに生きよ！とでも訳すのでしょうか。私も静かに生きることを心がけているのですが、今は単なる掛け声だおれに終っている今日この頃であります。

同門会・役員会活動について 幹事からのお知らせ

岡　田　光　司

平成10年9月30日現在、同門会会員数は正・賛助会員計153名、また平成11年度（平成10年10月1日～平成11年9月30日）の予算は約660万円が計上されていることを会員の皆様には先ずはご確認下さいますように。

本会の趣旨は会員名簿に掲載されている会則の第2条（目的）に記載の通り、教室の支援・賛助並びに会員相互の親睦であることは言うまでもない。今回は現在の同門会の事業・運営の内容と運営協議を行うための役員会について、幹事の立場より初めてのインフォメーションとして会員の皆様にその概要を紹介する。また、これらの事業・運営に関わる経費は大部分が納入された会費で賄われています。平成10年度の新会員11名の先生方にはもとより、従来の会員皆様にも今一度、同門会・役員会についてご理解をいただきたい。以下事業・運営内容を示す。

（A）事　業

⑴教室支援（田島主任教授に活躍していただき、教室発展に少しでもと）
各種学術活動（学会・研究会など）協賛
教室員活動（海外留学その他）助成
将来的な会の事業への積立金

⑵会員親睦（会員コミュニケーションに）
同門会誌発行（年1回11月～12月）
会報発行（年に計2～3回）
同門会員の演者による日整会認定学術講演会開催（年1回総会時）
親睦のゴルフ大会・テニス大会などの開催
会員の慶弔に関するお祝い・お見舞い

（B）運営内容

⑴事務局：整形外科教室に設置し、事務連絡は辰巳女史が担当

⑵役員会：河野会長ならびに帖佐幹事、川野・川越会計ほか総勢17名で構成され、前述の事業についての協議・実行を行っている。

⑶役員会開催：会報の作成時期や総会、臨時総会を控えた予算・決算、選挙など協議事項が発生した時に、適宜（年4～6回）開催

⑷役員構成：2年任期の役員構成については会長の意向で、大学、勤務、開業の各分野から年齢・経験も考慮し指名がなされている。

上記の事業・運営に関する具体的な実行内容ならびに決算などは年末の総会時に報告を行い、了承をいただいている。また役員会の開催についてはご多忙中の役員の先生方にその都度招集

をかけているが、原則として交通費、弁当代は無しでそれこそボランティア的に会議出席をいただいている。幹事としてご出席の先生方のご協力に改めて感謝申し上げる次第であり、この点の経費計上の提案をと考えている。なお役員の構成については現在の運営上、適切であると思っている。

以上概略述べたが、近年の会員増に伴い例えば会費徴収、出版物編集、会員福利、会員親睦など役員の役割分担が余儀なくされるなど、通信連絡事務も含め業務は確実に増えてきている。今後も会則記載の目的に沿った事業内容でかつ運営はスリムにと心掛けていきたいので、会員諸氏にはこれらを十分にご理解の上、今後のご協力を改めてお願いいたしたい。なお、現役員（平成9年5月31日～平成11年5月31日）については、同門会誌の名簿に記載されているので、ご確認されたし。ご意見・ご要望の折りには最寄りの役員の先生へご進言・ご意見下されば役員会にて協議いたします。また会員消息その他事務連絡につきましては事務局宛て、ご連絡下されば宜しいかと存じます。

第6回同門会ゴルフ大会にて

整形外科11年目

柏　木　輝　行

タバコをやめて1年6カ月になります。

高校1年の時以来ちょうど20年、禁煙を考えたことなど一度もありませんでした。息子にタバコはいやだと言われ、その半年後の世界禁煙デーを最後にしようと決心し1年6カ月になります。はじめは、かなりもがいていましたが半年も過ぎたころには自信がついてきました。医局の中では、常に喫煙グループの先頭で、禁煙にしましょうと言う声に向かって煙をふいていましたが、世界禁煙デー以来、禁煙グループが徐々に形勢逆転し、ついに医局と研究室も一部を除いて禁煙にしてしまいました。当然喫煙グループの反感は強く“裏切り者”と言われています。しかし、外来や手術の後の一服の味は今でも脳裏に刻みついて離れません。

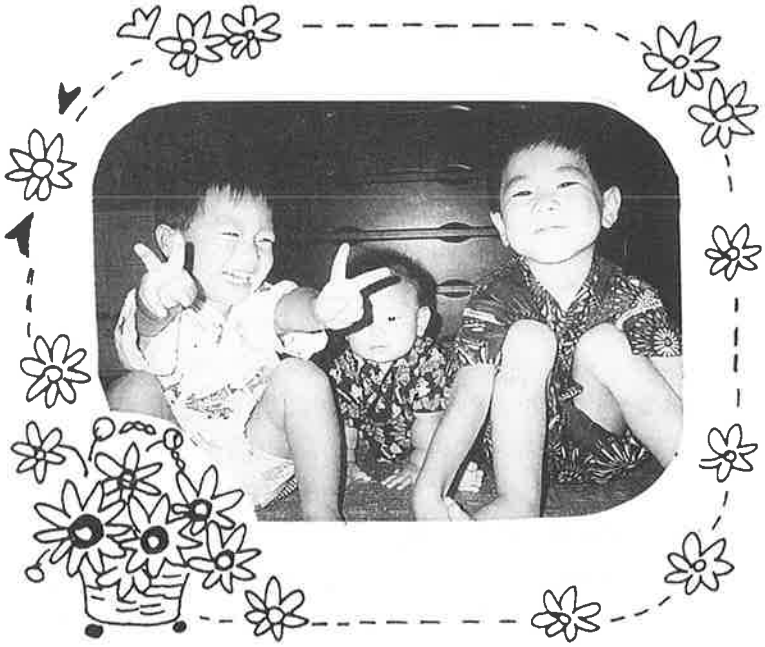
水泳を始めて4年目になります。

現在、週に4～5回プールに行きます。夜7時から8時ぐらいに1時間半医局を出ます。初めの頃は、その時間用があるときに探されたりしましたが、今まではみんなプールにいることを知っています。いつも必ず2000m泳ぎます。クロールや背泳は、習慣性脱臼のためできないので平泳ぎのみです。泳ぎ初めの頃は200～300mぐらいが精いっぱいでした。しかも完璧な肥満体型で泳ぐ姿は、あまりにも醜くドッボンザッブンと途方もない水しぶきをあげながら、さらに溺死寸前の表情で周囲の方々に恐怖感を与えていました。しかし体重は20kg、ウエストは15センチぐらい減り、コレステロール、TGも何年かぶりに正常化し、最近多少はきれいに泳いでいるつもりです。ラグビーをしていた頃の筋肉とは全然違いますが、ここ数カ月前から久しぶりに肩と胸に筋肉がついてきました。鉄人レースの押川先生にはほど遠いものの、ちょっとは見られる体つきになりました。プールでは年配の方々もたくさんいますが、その方々は、私の体型、顔貌から、消防隊あるいは機動隊関連の人と思われているふしがあるようです。ただ、今の仕事では、筋肉や筋力の出番はほとんどありません。手術室での患者さんの足もちや移動は、研修医の先生たちにしていただき、偉そうにしているばかりです。せめて、ポートパックのドレーンチューブの針先を挿入しやすいように曲げるときぐらいが私の筋力の出番です。しかし、なぜか体力は思ったほどついていないようですし、目標の標準体重まではまだ10kgもあります。

結婚して8年になります。

学生の頃からつきあいはじめてちょうど10年目の時に、すこしずつためたこづかいで、スイートテンダイヤモンドを贈りました。妻は多少涙ぐみ「本当は9年目なんだけど」と言いながらみせた笑顔が私のこころの支えです。そして、二人の息子の元気に走り回る姿と、娘が父親のた

めに、父親だけに見せてくれる笑顔が生きる糧です。しかし、なぜこんなにも父親に似てしまったのか、不憫でなりません。



整形外科11年目になります。

入局した時、ある先生（長鶴先生）に「整形外科を10年やったら整形外科疾患に関しては、診断から治療までなんでもできるようにならなあかんで」と言われ、それは一つの目標でした。しかし、10年たって自分ができることはごくわずかで、おまけにレベルの低い整形外科医でしかない自分自身に失望してしまいます。ただ自分に何ができ何が今できないかだけは、少し解ってきたようです。ここ数年は整形外科の専門の中のさらにマイナーな分野の勉強ばかりに明け暮れてきました。これからは、もう一度じっくり整形外科を勉強しなおしてみたいと考えています。ばたばたと過ぎていくような時間の使い方からすこし離れ、多少ゆとりのある時間空間のなかで自分のめざす整形外科をこつこつとやっていければいいと思っているのですが。

1月から医局長の仕事をさせていただきもう1年になります。ここまでやってこれたのも諸先輩、同期そして良き後輩の先生方のおかげと感謝いたしております。医局長の仕事のひとつひとつを思い返してみますと、もっと的確、迅速、有効になされるべきであったことだらけで、その分みなさまに御迷惑をおかけしたようです。歴代の先生方はやはり有能な方ばかりであったとあらためて感心しております。しかし、私のあとには極めて優秀な先生方が着実に実力と経験を積まれていますので、たのもしい限りです。

また、医局長の行事を始めてあらためて教室秘書の方の努力と能力に感心しました。彼女たちがいなければ到底1年無事に業務を行うことはできなかったと思います。

私も、今後は微力ながら教室、同門のために自分ができることを模索していこうと考えております。みなさん1年間、10年間ありがとうございました。

西日本大会優勝＆３年連続
全国大会出場決定！

1軍キャプテン　矢　野　浩　明

平成10年４月、徳島での全国大会は１回戦敗退（スコア０－０、ジャンケン１－５ 対弘前大学）により、全国制覇の夢を果たすことができず、帰宮後、すぐ田島監督の下来年の全国大会の切符を手にするため練習が開始となった。

平成10年８月、安藤Dr.松元Dr.石田Dr.の破壊力のあるクリーンアップを中心とする横浜ベイスターズ並のマシンガン打線と安藤Dr.石田Dr.池尻Dr.松岡Dr.（新人）と個性派ぞろいの投手陣を擁して大分に乗り込んだ。今年も昨年に引き続き田島監督不在という不利な条件ではあったが、王座奪回を目標に本大会に臨んだ。

初戦の相手は産業医大、安藤Dr.を先発に立て、必勝体勢で臨んだ。1回表失策と四球で２人の走者を出したもののピシャリ無得点に抑えた。そしてその裏４四死球と４本の長短打で７得点し、その後１－２－２と得点し、投げては安藤Dr.が2回を無失点、池尻Dr.が３回を１失点に押さえ12対１で圧勝した。

2回戦の相手は鹿児島大学、松岡Dr.を先発に立てて臨んだ。守っては新人の松岡Dr.が投球の8～9割を変化球で相手に的を絞らせず５回を散発4安打完封し、打ってはクリーンアップだけで６安打８打点を挙げ８対０で完勝した。

準決勝の相手は九州大学、私の知るところでは我がチームが今まで1回も勝ったことのない嫌な相手である。1回表　我がチームは先頭打者の松岡Dr.が四球で出塁後、有住Dr.の犠打などで2死３塁となり、迎えるは４番松元Dr.どでかい中越2塁打を放ちまず1点を先制し、続く石田Dr.の左前安打・池尻Dr.の敵失・矢野の２年ぶりの中前安打などでさらに3点を追加、計４得点を挙げた。投げては自称BWH110cmの石田Dr.が相手打線を２安打１失点に押さえ、５回表には安藤Dr.・松元Dr.・関本Dr.の安打などでだめ押しの３点を追加し、７－１（完封したら御褒美の約束に力が入った為の失点か？）で対九大戦初勝利を挙げるとともに、決勝進出並びに全国大会の切符を手に入れた。

決勝の相手は強豪琉球大学、全国大会出場権取得済であったため、一瞬エンジョイベースボールをとも考えたが、メンバーの‘勝ちたい・優勝したい’という勝利への熱意が強く、王座奪回をめざし再び安藤Dr.を先発に立てて試合に臨んだ。初回を難なく０点に押さえたその裏、先頭の松岡Dr.の中前安打を皮切りに松元Dr.の左中間への３塁打・４四死球などで５点先取した。灼熱の太陽が照りつける真夏の4試合目となると下半身が鉛のように重くベンチから守備につくのでさえきついというそんな中、2回表突然安藤Dr.の投球が乱れだし４与四死球と１内野安打で2得点され、３点差に詰め寄られた。安藤Dr.は、これまでの全力投球・全力疾走にて疲労は限界を超えこれ以上の投球は困難であると判断し、2番

手に石田Dr.を投入し残りの3回を無失点に押さえた。さらに4回には井上Dr.の右前安打などでだめ押しの1点を追加し、6－2で勝利し見事王座に返り咲いた。

全試合を振り返ってみると

Ⅰ．投手陣がきっちり相手打線を押さえた

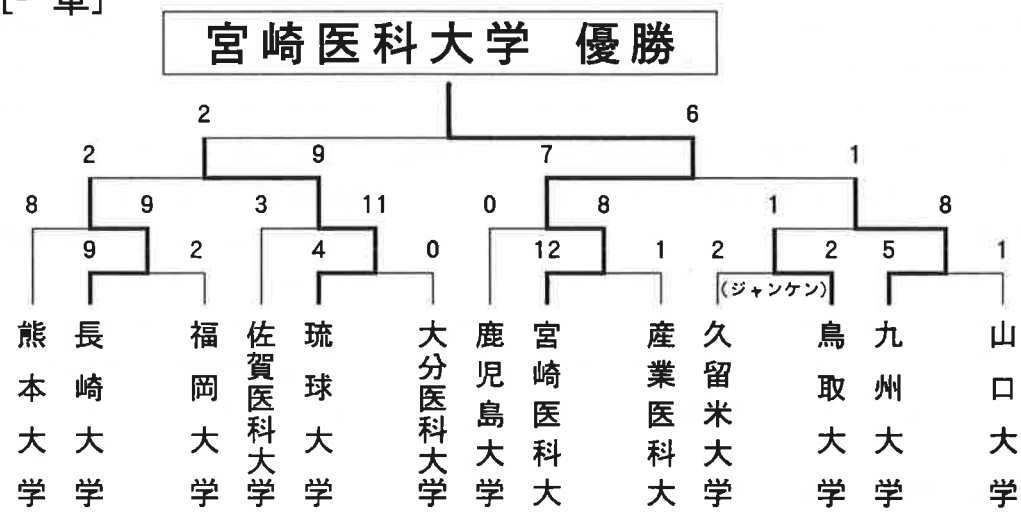
Ⅱ．初回に先制点が入った

Ⅲ．クリーンアップが大爆発した（ちなみに各々の打率は.444・.778・.556であった。）

と理想的な試合運びをすることができたのではないかと思います。来年の全国大会でもこの実力が発揮されればきっと全国制覇ができると思います。

最後になりましたが、選手を快く送り出して下さいました大学ならびに関連病院の先生方、裏方の仕事をがんばって下さった皆様、応援して下さいました皆様、心より感謝いたします。

［一軍］



西日本野球大会２軍４連覇達成

松　岡　知　己

８月１、２日大分にて西日本野球大会が開催され、我々も４連覇の野望を持ち乗り込んだ。

１日の懇親会の抽選会で帖佐先生のゴットハンドに期待を抱くも、いつものようにシードを獲得できなかった。

作戦会議で明日の出場の可能性が少ないと通告した田島卓也先生は悲しみ？の中、同情する後輩と共に夜の街に消えて行った。

２日朝５時20分に集合し、１回戦の日岡グラウンドに出発した。

1回戦の対戦相手は福岡大学であった。先発は樋口先生であった。

コントロールが良く、先頭打者を見逃しの三振に取るなど上々の立ち上がりであった。

攻撃では不動の切り込み隊長園田先生の火の出るような打球に始まり、1回4点、2回2点、3回4点の計10点を取り、守備でも村上先生などの好守備あり4回まで無得点に抑え、5回の無死満塁のピンチも2軍の大魔人こと黒木隆男先生の好リリーフで無得点に抑え、5回コールドで2回戦に進んだ。

2回戦の対戦相手は佐賀医科大学であった。先発は柳園先生、10日前の医局対抗野球大会での投球内容とはまるで別人のような伸びる速球とブレーキのかかったカーブと素晴らしい投球であった。

打線も爆発し、渡部正一先生と江夏先生の本当の重量打線のホームランや河野立先生の野球大会初安打などで１回９点、2回4点、3回5点、4回９点の猛攻であった。

３回に大きな３塁打などで２点を失うも４回コールドで準決勝に進出した。

準決勝の相手は産業医科大学であった。

先発は黒木龍二先生で内外野の好守備もあり初回無得点に抑え、その裏足を絡めて１点先取、2回に同点に追いつかれるも３点取り突き離す。3回表に再び追いつかれ、更に１死２塁のピンチが続く。しかし球が走り出した龍二先生は勝ち越しを許さず、3回裏相手の投手交代に乗じた連打で得点を重ね、最後は園田先生のホームランで3回コールド勝ちで決勝進出。

決勝の相手は準決勝で長崎大学を９対８の激戦で制してきた九州大学であった。先発の柳園先生は2回戦の時より更に調子良く、特に１塁にランナーが出ても牽制球で3度もアウトを稼ぎ相手の機動力を封じ、攻めては初めてのフェンスのある春日浦球場に燃えて1回、2回と打者一巡の猛攻で9点を奪い主導権を握り、その後決勝戦に相応しい攻防を繰り返し6回時間切れコールドで勝利を収めることができ４連覇を達成した。

今回はいつもより少数精鋭で望み、特に野中先生、黒木隆男先生、樋口先生はフル出場と頑張ってもらい、海田先生、坂田先生、深野木先生はランナーコーチ、バット引きなどもやって

もらいお疲れさまでした。

神薗先生も重要な役回りありがとうございました。

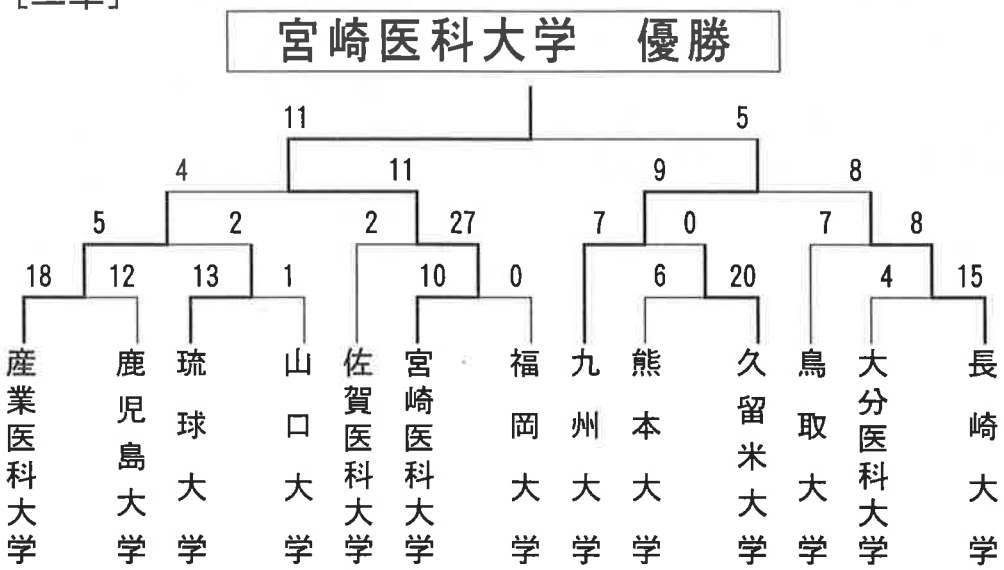
暑い中応援、スコアブックを担当してもらった看護婦さんありがとうございました。

ご協力いただいた関係者の皆様ありがとうございました。

来年は、更に精進し5連覇を目指したい思います。

1回戦 10対0 福岡大学
2回戦 27対2 佐賀医科大学
準決勝 11対4 産業医科大学
決　勝 11対5 九州大学

［二軍］



第25回日本臨床バイオメカニクス学会を終えて

学会担当　川　越　正　一

さる11月19日・20日に当教室主催にて第25回日本臨床バイオメカニクス学会を無事に開催することができました。私は、平成8年から9年にわたる教室員・同門会の方々よりの支援担当の役割に続き、さらに医局長終了後の本年度は、急きょバイオメカ学会担当の大役を与えていただきました。ご支援いただいた、同門会の諸先生方には紙面を借りまして御礼申し上げます。また、金銭面および労働力両面からご協力いただきました教室員・関連病院の皆様にも感謝申し上げます。特に、学会準備後半においては、医局内の先生方に、各部門（学術・会場および進行・人員配置・接客および渉外）の担当になっていただき、積極的に動いていただきました。本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

学会は、ベルン大学のガンツ教授の特別講演、宮崎大学工学部の池田教授の教育研修講演、シンポジウム（脊椎固定術のバイオメカニクス）と、一般演題136題の口演が3会場において行われ、活発な討論がくりひろげられておりました。それぞれの分野での先端の知見に関して、医学系と工学系の双方が提携し、研究が進められてきている報告が多く、今後の方向性を示されたような気がしました。

医学雑誌でも、いろいろな方が、現在の学会過多の状況に対し、否定的な意見を述べておられます。しかし、状況は変わらず、次々と新しい学会が生まれてきています。整形外科の細分化・専門化によるものかもしれませんし、単位取得を義務づけた認定医制度によるものかもしれません（特に地方会）。世の中全体の社会道徳・経済（医療経済も含めた）の傾向から、関係各位のご協力も得られにくい状況のため、今後とも学会開催に関しては、いろいろと困難な局面に対処せざるをえない状況となっております。世間の常識にはずれない、真の学問の発展や医療の向上をめざし、自己の向上心と使命感をかき立てられるような学術集会のみが生き残っていく事を希望します。

もう腹一杯です。ごちそうさまでした。

会　長　挨　拶

GANZ 教授と田島教授

教育研修講演　池田清彦教授

シンポジウム

受　　付

学会本部スタッフ

第6回日本腰痛研究会始末記

久　保　紳一郎

1998年11月21日に行われた腰痛研究会（以下、腰研）について何か書きなさいとの指示を受けましたので一言書かせて頂きます。はじめに謝っちゃいますが、「宜シク腰研ヲ担当スベシ」との大本営からの下知を受けた時、不肖私メは当研究会に全く出席したことがなく会員でもなっかたため「どげんすっかなあ。（訳：どうしようかなあ）」と半ば放心状態でした。しかし天は私を見捨てませんでした。医局きっての手練（てだれ）で一昨年の側彎症学会の時に不幸にも私の無能ぶりを熟知している「鷹取女史」が味方についてくれると言うではありませんか。しかもにっこり笑って「久保先生、大丈夫よーん、懇話会をちょーっと大きくしたようなもんだから！」との心強くも大胆なお言葉に、私はタイタニックから宇宙戦艦ヤマトにでも乗りかえたような安堵感を覚えたのでした。それからのお仕事は鷹取艦長のきめ細かい作戦にただただ従っておれば良く、もっとはっきりいえばな〜んにもしなくても着々と準備は進みましたが、その分、艦長の気苦労は大変なものがあったようです。

さて本番前日になり、今回の教育研修講演の講師：「中野　昇」先生を清武の羽賀研二こと谷畠君と空港に出迎えに行きました。中野先生は日本の脊椎外科における草分けとして甚だ御高名であり、いささか緊張の初対面でしたが、「迎えにきてくれたのー！若い先生達は大変だねー、ほっといていいよー」とかえって気を遣ってくださり、車中でも脊椎にまつわる昔話を息子にでも話すような気さくさで語って頂けました。私はほっと胸をなでおろすと同時に、実力を深い懐に秘めた人物とはこういう人のことかと感じ入り、なんだか幸せな気分に浸れました。その夜、スタッフは会場設営部隊と宴会部隊に別れ各々任務をまっとうしました。宴会部隊：柏木隊長が（このひとも実力を深くかくして全く飲まなかったらしい）宴会終了後もマイクを離さなかったことは言うまでもありません。

いよいよ本番当日、集合時間の７：30きっかりに会場に着いたつもりでしたが、もう私以外のスタッフはほぼ全員揃っており、もっぱら柏木医局長の呆れ返った視線から目をそらすのに精一杯でした（この私の日向時間性格がその後の学会進行にまで影響を及ぼすとは誰も予想だにしなかったでしょう…）。その後田島教授の「かかれーっ」の号令一下（ウソです）、各部署のスタッフのてきぱきとした作戦行動により（ホントです）予想よりかなり早く会場準備は整いました。ウグイス嬢こと冨里先生の流麗なアナウンスを皮切りに会長・名誉会長スピーチがトドコオリなく済み、いよいよ午前中のセッションがはじまりましたが、質問轟々・議論白

熱のため（半分ウソです。真実は前述の通り私の日向時間性格による進行遅れが病因です。）予定時間より30分も遅れてしまいました。これが本会最大唯一（？）のミスとなりました…トホホ…。

午後からは中野先生の講演「35年間にわたる腰痛に対する保存療法の実際」を拝聴しましたが、簡単なことをもっともらしく見せようとする現代の風潮とは逆に、試行錯誤の末に体得された実戦的療法を解り易いように噛み砕いてお話しをされ、その後の質疑応討もマニピュレーションの実演を交えての実り多いものになりました。ただ、狸寝入りの進行係・K助の目が、かの有名なスッポンポンスライドの時にだけギラリと暗闇に光っていたのを午後のウグイズ嬢・岡田先生は見逃しませんでした。その後の主題「職業性腰痛の予防」もシンポジストの先生方の積極的発言と白井教授・山本教授のピントを絞った名司会で、よくまとまったものとなり最後を締めくくって頂けました。うちの〇ンポロジスト・松元ちゃんも新婚の奥さんから習いたての標準語を駆使し、堂々とした発表ぶりを見せてくれ頼もしいかぎりでした。（またお願いします）

以上、学会担当者としての感想を簡単に述べさせて頂きました。昔と違い今回は関連病院を含めた若い教室員のみの力による学会主催であり、時には医者の立場を忘れなければやっとれんような事もあったかと思いますが、その見事な働きぶりを誇りに思うと共にこの場を借りまして御協力に感謝致します。今後は、教室の若い先生方が、その若い力を臨床・研究・発表の場において存分に発揮できますよう期待しつつ、このバッククラッシュド・フィッシングライン―縺れた釣り糸―のような駄文を終わりにしたいと思います。本当にお疲れ様でした。

11月22日　当直室にて

教育研修講演　中野　昇 先生

シンポジウム

脊椎班の近況報告

後　藤　啓　輔

現在脊椎班のメンツは、田島教授を筆頭に、いつもにこにこ久保先生、video鑑賞の作先生、最近帰宅が早くなった松元先生、Marc A. Asherのもとで彼氏ができた黒木浩史先生、認定医試験が心配な私と渡辺先生、好性年の谷畠先生と、今年のニューフェースの冨里先生、村上先生、猪股先生、海田先生の12名より構成されています。

医者の数は増えたものの他のグループとのバトルに負け、2床明け渡し17床にて診療に当たっております。このため関連病院および同門会の先生方には、大変ご迷惑をおかけしております。

対象疾患はおかげさまで、椎間板ヘルニアをはじめとして変性疾患・側弯・腫瘍・外傷まで多種にわたり、色々な症例を学ばせていただいております。

これらの症例に対して、うんこやおしっこが判らなくなるなど緊急を要することの多い脊椎疾患ではありますが、当病院特有の諸事情（PM5：00に直介看護婦が手をおろす？）により手術は週3〜4例にとどまっております。

手術法の進歩は目覚ましく、micro Loveの小侵襲のものからTES（椎体全摘出術）に至るものまで手広く商しています。最近、新しいもの好きの脊椎班は、術中エコー・SEP／MEPなどサイドビジネスに手を広げ、業績拡大をめざしています？

色々これからも同門会の諸先生方にご迷惑をおかけするかもしれませんが、宜しくお願い致します。

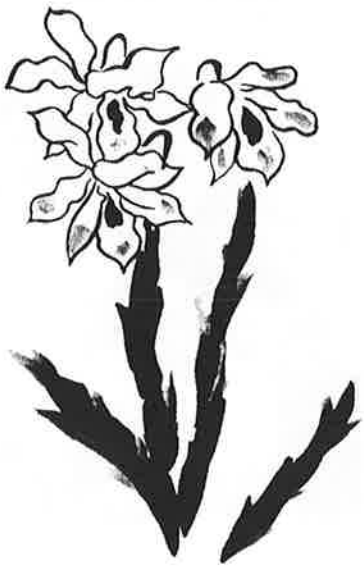
最後に、今度手術器具としてTESセットが入りました。metaおよび原発の脊椎腫瘍が3椎体（うちでは2椎体までしか経験が有りませんが）以内の患者様がいらっしゃいましたらご紹介のほど宜しくお願い致します。

下肢班近況報告

益　山　松　三

下肢班では、今年の1月からスポーツ班が独立した為、OA・RAなどの関節障害を中心に骨軟部腫瘍、先天性下肢疾患など多彩な症例について勉強させて頂いております。

入院ベッドは11床で、月・木の週2回2〜3例手術を行っております。ベッドの関係上、術後早期の転院となり、関連病院や同門の先生方には御迷惑をかけることが多く、この場を借りて、御礼を申し上げます。と同時に、今後とも御指導・御鞭撻の程よろしくお願い致します。



上肢班について

川越正一

現在上肢診療グループは、1月から黒木龍二先生、4月から蛯原先生に代わり神薗豊先生を加え、川越、研修医の坂田先生、岡田先生の5人の構成で、さらに安藤先生、田島卓也先生が、大学研究日に手術・外来・検査で上肢診療に加わっております。入院ベッドは6つで、定例手術は他の診療グループとの調節を行いながら、週2件のペースで行われております。ベッドの関係上、術後早期から、関連病院や同門の先生にお世話になることが多く、この場を借りまして、御礼申し上げます。

手術件数は、平成9年10月から、平成10年9月まで106件です。この内訳をみますと、部位別では、肩甲帯・腕神経叢6件、肩関節10件、上腕5件、肘関節13件、前腕14件、手関節18件、手指32件、下肢6件となっており、下肢症例は先天奇形症例と、筋膜皮弁症例でした。病態区分としましては、外傷関連（偽関節、拘縮、神経損傷、変形治癒含む）53例、拘縮4例、腫瘍14例、変性・退行性疾患3例、慢性関節リウマチ8例、先天性疾患7例、絞扼性神経障害14例、感染性疾患3例となっております。

多くの貴重な症例をご紹介いただきながら、病院の体制から緊急対応の必要な患者さんの受け入れが困難な事もあり、関連病院や同門の先生方には、ご迷惑をおかけしておりますが、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

スポーツグループの現況

園　田　典　生

スポーツグループは現在、園田・樋口・深野木（姉）・河野・松岡（篤）の５人で火曜日（担当：園田）、金曜（隔週で田島教授、樋口先生）の外来を行い、病棟は６ベッドで、おもに膝関節鏡視下手術（ACL、PCLなどの靭帯再建術を中心に半月、離断性骨軟骨炎に対する手術など）のほか、足関節、肘関節などのスポーツ傷害に対して手術を行っている。ただし、スポーツグループがつくられる前に手術施行した症例（人工関節、HTO、腫瘍）も継続して外来で診ているために実際には時々、TKAやHTO等の手術も行っているのが現状である。

スポーツ外来で診る症例の多くは保存的に加療し、アスレチックリハビリテーションを施行しなければならず、個々の選手に応じてリハビリメニューを作成し実行する必要性があるため、理学療法士に頼る部分が大きい。幸い当院の先生方は理解があり２人と少ないにもかかわらず、好意的に協力していただいている。実際に他県でスポーツ外来を開設している施設は病院全体の理解があるのであろう、現場へドクターが出かける機会が多いようで、より多くの選手の直接検診がされており、競技会への帯同を含め我々からするとうらやましく思われることがある。（費用などかなり苦労されていると思われるが…。）

大学病院という性質上、病院内での外来診療・入院加療など限界はあるが、人数さえそろえば、定期的な現場での直接検診、指導者との相談など、発展していく要素はいくらでも考えられる。今の５人という人数では選手に通院してもらわねばならず、今後スポーツ医学に興味のあるドクターが医局内でさらに増えることを痛切に願う今日このごろである。

医　局　旅　行

河　野　　立

今年の医局旅行は、大分での西日本整形外科親善野球大会とあわせて、8月1、2、3日に行われました。（野球については、キャプテンのお言葉を参照下さい。）

宿泊先は別府市内のホテルでした。2日の夜には1、2軍アベック優勝の祝賀会をかね、宴会が行われました。毎年恒例の新入医局員の先生方による懇話会も行われましたが、いつの間にか、あるDr.(若手）の大分市内での夜の活動についての暴露大会となり、大変な盛り上がりをみせていました。

2次会は、Dr.Cを中心に、Dance、カラオケ、花火大会（うるさいと注意をうけた）と皆それぞれ楽しんでいました。

翌日は神薗・松岡先生をリーダーに、10数名で城島後楽園ゆうえんちを訪れました。（神薗先生は、子供さんに連れていってとせがまれていたそうですが、御自分だけ先に来てしまったとおっしゃっていました。）木製ジェットコースター「ジュピター」など、各種絶叫マシーンを、皆で楽しみました。（神薗先生を除いて。）1年生の3人はバンジージャンプに挑戦していました。

天気にもめぐまれ、楽しい思い出となりました。おつかれ様でした。

留守を担当された先生方、どうもありがとうございました。

新入会員自己紹介（順不同）

氏　　名　神　薗　　豊
生年月日　昭和33年8月23日
出身高校　宮崎県立都城泉ケ丘高校
出身大学　防衛医大
血 液 型　A型

この度、宮崎医大整形外科同門会に入会させていただきました。この場を借りて自己紹介をさせていただきます。

住　　所：宮崎市生目台西4丁目9－9
略　　歴：昭和58年　防衛医大整形外科入局
平成元年　防衛庁退職
福島県会津若松市にある総合会津中央病院勤務
平成10年　宮崎医大整形外科入局

田島教授の御配慮で入局させていただいてから早いもので半年が過ぎ10月を迎えようとしています。会津では紅葉が鮮やかであと1～2カ月もすると雪が舞う季節ですが宮崎はつい先日まで30度を越える残暑が続き、最近ようやく秋雨前線の影響で涼しくなってきて高校卒業以来21年間忘れていたあの暑い夏がやっと終わったかと安堵しているところです。会津にいれば冬が寒くて耐えられない、宮崎の夏は暑すぎてこんなはずではなかったと私の家族（妻1人と子供3人）は勝手なことばかり言うので閉口しています。さて当教室では上肢班に属し、カルチャーショックを受けながらも週1回の外来と手術をさせてもらっています。私の症例はこれまで手の外科と関節外科が多かったので苦手な腫瘍の患者が多いのには参りました。さすがに大学病院だなと実感しています。当然リウマチで手がひどく変形している患者も多いのでその方面の手術症例を増やせればと考えています。趣味は広く浅く多方面にわたり、主に釣り（鮎の友釣り、海釣り、渓流釣り）、麻雀、囲碁、将棋、スキー、テニス等遊ぶことなら何でもお誘いください。ちなみにゴルフは15年間もやってきて最近ようやくセンスがないことに気が付いたのでやめようかと思っています。どうぞ誘わないでください。ということで今後ともよろしくお願い致します。

氏　　名　深野木　快　士
生年月日　昭和48年3月16日
出身高校　福岡大学附属大濠高校
出身大学　福岡大学
血 液 型　A型

高校、大学と福岡で過ごし、また、姉が宮崎医大にお世話になっているという事で、僕は福岡大学に残るという予定で、国家試験合格後、アメリカへ1年間語学を学びに行きました。

しかし、渡米中に自分の周りで色々な変化が起き、宮医大整形に入局する事となりました。

現在入局して約半年が経ちましたが、1年生は9人もおり、仕事に忙しいながらもみんな頑張っている様なので、みんなに遅れをとらない様、一生懸命付いていきたいと思います。

今後とも宜しくお願い致します。

氏　　名　市　原　久　史
生年月日　昭和47年7月10日
出身高校　宮崎県立延岡東高校
出身大学　川崎医科大学
血 液 型　O型

今年入局した市原久史と申します。

3月に川崎医科大学を卒業し、こちらにお世話になることになりました。

入局してはやくも半年が過ぎようとしていますが、改めて整形外科の奥の深さを痛感させられています。現在は下肢グループに所属していますが先生方の適切な御指導のおかげでなんとかがんばれているといった状況だと思います。

これからは少しでも迷惑をかけないよう努力していきたいと思いますので、御指導の程よろしくお願いいたします。

また、これから剣道を始めようと思われている方は御連絡下さい。

氏　　名　岡　田　麻　里
生年月日　昭和49年1月14日
出身高校　宮崎県立宮崎西高校
出身大学　佐賀医科大学
血 液 型　A型

今までの自分のとりえといえば、幼い頃から続けていた水泳でした。6年生の西医体は地元宮崎で行われ、満足のいくタイムで競泳のフィールドから引退することができました。

現在は上肢グループで先生方から御指導を頂いています。そそっかしい性格のため、ご迷惑をおかけすることもしばしばですが、とても興味のある分野で、毎日楽しく勉強させて頂いています。

近頃では手術の前に、試合に臨むときのような緊張感を感じるようになり、整形外科のフィールドで挑戦を続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

氏　　名　海　田　博　志
生年月日　昭和45年2月20日
出身高校　宮崎県立都城西高校
出身大学　関西医大
血 液 型　AB型

H9.5月より宮崎医科大学整形外科に入局しました研修医1年目の海田博志です。

大学時代からあまり目的もなく生きてきましたので、入局時のグループ分けも何も考えずに“脊ツイ”グループに入ってしまいました。そこでオーベンの先生方の意気込みにふれて頑張ろうと何年ぶりかに心がふるい立ちました。この気持ちを何かのたびに思い出し、これからの長い医者としての道のりを過ごしていこうと思います。

まだまだ全てのことにおいて未熟者ですが、先生方の御指導の程よろしくお願い致します。

プロフィール

氏　　名　坂　田　勝　美
生年月日　昭和44年8月21日
出身高校　宮崎県立宮崎西高校
出身大学　佐賀医科大学
血 液 型　O型

佐賀医科大学を卒業し、今年、宮崎医科大学整形外科に入局しました。

大学時代は海を愛し、ヨットの魅力にとりつかれ、年中ヨットのことを考えて過ごしていました。

入局して、半年が過ぎようとしています。ようやく、病棟の仕事にも少し慣れてきました。

勉強しなければならないことが山積みなのですが、仕事が終わったら、力尽きてしまい、なかなか、思うように進んでいないのが現状です。

しかし！このままではいけない！勉強しなければ！と思い始めている、今日この頃です。

今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。

氏　　名　冨　里　恵　美
生年月日　昭和46年6月29日
出身高校　昭和薬科大学附属高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　B型

宮医大整形外科に入局し、早いもので6カ月が過ぎようとしています。現在は脊椎班で久保先生、後藤先生のもと、OPLL、腫瘍、ヘルニアなど幅広く学んでます。脊椎班はOPE時間も長く体力、精神力ともに必要とするため、この6カ月でかなり足腰が鍛えられたかと思います。また、病棟のDr.、Nurse、同期の皆の明るさに助けてもらい毎日あっという間に過ぎています。まだまだ勉強不足で諸先生方には御迷惑をおかけしますが、1日1日を大切に反省と前進あるのみの姿勢で精進していきますので今後とも御指導の程、宜しくお願いします。

氏　　名　村　上　　弘
生年月日　昭和47年11月28日
出身高校　熊本県立宇土高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　O型

今春、宮崎医大を卒業しまして縁あって母校の整形外科に入局させて頂きました。早くも6カ月が過ぎ去ろうとしていますが、毎日毎日、自分の力不足を痛感させられ自己嫌悪に陥ることも多々ありますが、ようやく朝早く夜遅い生活に体だけは慣れてきたように思います。カンファ、手術、病棟業務と諸先生方、看護婦の方々に御迷惑をかけてばかりですが日々精進していきますので今後ともどうぞ御指導の程、宜しく御願い致します。

氏　　名　松　岡　　篤
生年月日　昭和47年6月2日
出身高校　六甲高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　B型

今年、宮崎医科大学を卒業し、半強制的に入局させていただきました松岡篤です。半強制的に入局したものの、今は、後悔するどころか毎日毒をはきつつ楽しんでおります。

入局して5カ月がたち、ようやく病棟の仕事をこなせるようになってきましたが、仕事に疲れて（夜の街に出るのに忙しく）勉強の方は殆んどしておりません。また、私の使命である野球に関しては、学生時代と違いかなりプレッシャーをうけながらもプレーさせてもらい、西日本で優勝したことで少し貢献でき、ほっとし、最近太ってしまいました。来年も投げさせてもらえるよう変化球にみがきをかけたいと思っています。

未熟者ですが、諸先生方、今後の御指導をよろしくお願いします。

プロフィール

氏　　名　猪　俣　尚　規
生年月日　昭和45年5月6日
出身高校　宮崎県立都城西高校
出身大学　関西医科大
血 液 型　A型

関西医科大学を卒業し、今年、宮崎医科大学整形外科に入局させていただきました猪俣尚規と申します。

入局して6カ月たち、少しは病棟の仕事にもなれたような気がしますが、まだまだ、ぬけていることが非常に多く、諸先生方に御迷惑ばかりかけている毎日です。

また、患者さんが元気になって、退院されるのを見ると、整形に入局してよかったと思うのと同時に、勉強していない自分が大変はずかしく感じられます。

勉強して患者に対し失礼のないDrになれるようがんばりたいと思います。よろしくお願いいたします。

教室同門の研究業績

（1997．1月～12月まで）

◆著　　書

1）中高年者のスポーツ外傷・障害・疾患の実態と予防のポイント

田島直也，桑原　茂

中高年のスポーツ医学　編集　田島直也，武藤芳照，佐野忠弘，

78-84，　南江堂，東京，1997.

2）骨盤・下肢の外傷・障害

帖佐悦男，田島直也

中高年のスポーツ医学　編集　田島直也，武藤芳照，佐野忠弘，

125-129，　南江堂，東京，1997.

3）腰　　痛

黒木俊政

中高年のスポーツ医学　編集　田島直也，武藤芳照，佐野忠弘，

290-293，　南江堂，東京，1997.

4）発生頻度　Ⅲ体幹・胸部　脊椎・体幹

田島直也，桑原　茂

部位別スポーツ外傷・障害　井形高明　編集，165-170，南江堂，

東京，1997.

5）予防対策とメディカルチェック　Ⅲ体幹・胸部　脊椎・体幹

田島直也，桑原　茂

部位別スポーツ外傷・障害　井形高明　編集，190-193，南江堂，

東京，1997.

6）脊椎の成長期スポーツ障害－とくに分離症－

田島直也

整形外科治療のコツと落とし穴　スポーツ障害－スポーツ一般，編集

山内裕雄，小野村敏信，小林晶，135，中山書店，東京，1997.

7）Biomechanical Study of the Lumbar Spondylolysis Using a Three Dimensional Finite Element Model and 3D-CT Images

TAJIMA N.,TOTORIBE K.,CHOSA E.

SEVASTIK J.A. and DIAB K.M.:Research into Spinal Deformites 1, 185-188, IOS Press.1997.

8）いわゆる腰痛症（急性腰痛症を含む）

田島直也

今日の治療指針1998 TODAY'S THERAPY　監修　日野原重明　阿部正和，p632，医学書院，東京，1997.

9）股関節のスポーツ障害－その２－

田島直也，帖佐悦男

股関節疾患保存療法，編集　赤松功也，p186-190，金原出版，東京，1997.

10）腰痛症に対するいわゆる骨盤ベルトについて

田島直也

整形外科治療のコツと落とし穴　手術器具・装具，編集 山内裕雄，小野村敏信，小林晶，135 ，中山書店，東京，1997.

◆原　　著

1）強直性脊椎炎に合併した頚椎骨折の稀な一例

深野木由姫，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，黒木浩史，松元征徳，三股恒夫

整形外科と災害外科，46（1） 119-121，1997.

2）精神障害者の外傷に対する整形外科的治療について

井上　篤，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，田島直也，三山吉夫，重信浩子

整形外科と災害外科，46（2） 293-295，1997.

3）超音波骨量測定法（QUS）の有用性の検討－二重エネルギーＸ線吸収測定法（DXA）との比較－

安藤　徹，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，後藤啓輔

整形外科と災害外科，46（2） 310-312，1997.

4）当科におけるkienbock病の治療経験－橈骨楔状骨切り術を中心に－

後藤啓輔，中村誠司，川越正一，田島直也，山口一郎，戸田　勝

整形外科と災害外科，46（2）332-334，1997.

5）変形性股関節症患者の歩行解析

田爪陽一朗，山口和正，渡辺信二，川越正一，田島直也

整形外科と災害外科，46（2）405-408，1997.

6）手術によるＣＰ児の歩行の変化－大型床反力計などによる評価－

渡辺信二，山口和正，田爪陽一朗，川越正一，田島直也

整形外科と災害外科，46（2）409-412，1997.

7）Atlanto-Axial-Rotatory Fixation の３－ＤＣＴによる評価

松元征徳，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，黒木浩史，渡部正一

整形外科と災害外科，46（2）453-455，1997.

8）Gamma Nailを用いた大腿骨頸部外側骨折の治療経験

長田浩伸，谷口博信，蛯原啓文，本部浩一，野辺達郎

整形外科と災害外科，46（2）432-435，1997.

9）腰痛をめぐる最近の進歩－診断から治療まで－脊柱側彎・後彎と腰痛

田島直也，作　良彦，渡部正一

カンレントテラピー，15（5）116-121，1997.

10）わたしの処方　腰痛

田島直也

CLNICAL PHARMACOTHERAPY，3（2）194-196，1997.

11）How to Diagnose Scoliosis and its Prognosis

Naoya Tajima，Etsuo Chosa

Asian Med.J.，40（5）252-259，1997.

12）選択的頸部神経根ブロック

久保紳一郎，田島直也

Monthly Book Orthopaedics，10　（6）83-88，1997.

13）宮崎県における青少年期サッカーによるスポーツ障害についてのアンケート調査からの考察（指導者からの回答について）

園田典生，田島直也，帖佐悦男，樋口潤一，野中隆史，河原勝博

九州スポーツ医・科学会誌，9　93-96，1997.

14）宮崎県における成長期サッカー選手の外傷・障害調査

樋口潤一，田島直也，園田典生，野中隆史，河原勝博

九州スポーツ医・科学会誌，9　97，1997.

15）産業医をめぐる諸問題　現代の医学'97

鈴木勝己，田島直也，山内裕雄

マルホ整形外科セミナー放送内容集，　123集 4-12，1997.

16）中高年者スポーツ障害の特徴

田島直也

マルホ整形外科セミナー放送内容集，　123集 No.1282 13-15，1997.

17）当科における胸椎部脊柱靭帯骨化症の治療成績

黒木浩史，田島直也，平川俊一　久保紳一郎，作　良彦，渡部正一

西日本脊椎研究会誌，23（1）116-123，1997.

18) 仙骨全摘術におけるinstrumentation の経験

黒木浩史，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，鳥取部光司，
作　良彦，松元征徳，渡部正一
西日本脊椎研究会誌，23（2）185-190，1997.

19) 脊髄造影にて完全ブロックを呈した腰椎変性疾患のＭＲＩによる評価検討

黒木浩史，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，作　良彦，渡部正一
脊椎脊髄ジャーナル，10（7）689-693，1997.

20) 高齢者整形外科手術における自己血貯血について

川野彰裕，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行
自己血輸血，10（1）97-100，1997.

21) 柔道選手の腰椎Ｘ線所見の経年的変化－腰椎分離と変性変化について－

樋口潤一，田島直也，黒木俊政，帖佐悦男，園田典生
日本整形外科スポーツ医学会雑誌，17（3）244-251，1997.

22) 実業団柔道選手の手指傷害についての検討

園田典生，田島直也，帖佐悦男，樋口潤一，安藤　徹，栗原典近
整形外科と災害外科，46（3）612-617，1997.

23) 脊椎悪性腫瘍に対する椎骨全摘出術（Total en block spondylectomy）の経験

渡部正一，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，鳥取部光司，
作　良彦，黒木浩史，松元征徳
整形外科と災害外科，46（3）732-737，1997.

24) 投球前後における肩関節ＭＲＩの変化

安藤　徹，田島直也，帖佐悦男，川越正一，園田典生，樋口潤一，
小牧一麿，田辺龍樹，市原正彬
整形外科と災害外科，46（3）878-883，1997.

25) DEXAによる踵骨と腰椎、大腿骨頸部骨塩量の比較検討

後藤啓輔，矢野浩明，田島直也，帖佐悦男，川越正一，園田典生，
野中隆史
整形外科と災害外科，46（4）944-947，1997.

26) 当科における外来自己血貯血（1200g)について

川野彰裕，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，田島直也

整形外科と災害外科，46（4）1010-1012，1997.

27) ＨＡＴＣＰコーティング人工骨頭の短期成績について

深野木由姫，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，田島直也，戸田　勝

整形外科と災害外科，46（4）1019-1021，1997.

28) 前腕部Fibromatosisにより深指屈筋腱拘縮をきたした１例

井上　篤，中村誠司，川越正一，野中隆史，田島直也，前原東洋，吉永一春

整形外科と災害外科，46（4）1105-1108，1997.

29) 超高齢者の大腿骨頸部骨折の観血的治療経験

田辺龍樹，小牧一麿，川越正一，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，田島直也

整形外科と災害外科，46（4）1160-1163，1997.

30) 特集　痛みからみるスポーツ障害－その鑑別診断

腰部の痛み

帖佐悦男，田島直也，園田典生

臨床スポーツ医学，14(10) 1127-1132，1997.

31) 腰痛検診の在り方－アンケート（直接検診を含む）・実態調査より－

帖佐悦男，田島直也

日本整形外科学会雑誌，71（3）（4） S539，1997.

32) Faux Profil 像の意義－股関節における単純Ｘ線 False Profile View －

帖佐悦男，田島直也，柏木輝行，長鶴義隆

日本整形外科学会雑誌，71（8）S1429，1997 .

33) 投球前後における肩関節ＭＲＩの変化

安藤　徹，田島直也，川越正一，小牧一麿，田辺龍樹

日本整形外科学会雑誌，71（8）S1606，1997 .

34) 股関節症の有限要素法による応力解析

帖佐悦男，田島直也，鳥取部光司，川越正一，柏木輝行

日本臨床バイオメカ学会誌，18 29-31，1997.

35) 人工骨頭置換術後の初期固定に関する実験的研究－力学的検討－

柏木輝行，帖佐悦男，鳥取部光司，川越正一，田島直也

日本臨床バイオメカニクス学会誌，18 469-472，1997.

36) 当院看護従事者および事務系従事者における腰痛について

柏木輝行，田島直也，平川俊一，帖佐悦男，久保紳一郎，黒木浩史

日本腰痛会誌，３（１）13-15，1997.

37) 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術（ＳＡＯ）の長期成績

長鶴義隆，柳園賜一郎，坂本康典，飯干　明

hip Joint，23　99-103，1997.

38) 股関節単純Ｘ線　Faux profil (False profile) 像について

帖佐悦男，田島直也，柏木輝行，園田典生，川野彰裕，長鶴義隆

Hip Joint，23 253-255，1997.

39) 股関節におけるArthro－ＭＲＩについて

柏木輝行，帖佐悦男，園田典生，川野彰裕，河原勝博，長鶴義隆，田島直也

Hip Joint，23　267-269，1997.

40) 人工骨頭置換術後の初期固定に関する実験的研究（組織学的検討）

柏木輝行，帖佐悦男，田島直也

Hip Joint，23　460-461，1997.

41) Evaluation of acetabular coverage of the femoral head with anteroposterior and false profile radiographs of hip joint

Etsuo Chosa，Naoya Tajima，Yoshitaka Nagatsuru

Journal of Orthopaedic Science，2 378-390，1997.

42) 胸椎部脊柱靭帯骨化症に対する後方除圧術の治療成績

黒木浩史，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，鳥取部光司，作良彦

日本脊椎外科学会雑誌，８（１）　16，1997.

43) 腰椎の動態解析（第１報　屈曲伸展時）－三次元有限要素法を用いて－

鳥取部光司，田島直也，平川俊一，帖佐悦男，黒木浩史

日本脊椎外科学会雑誌，８（１）249，1997.

44) 後縦靭帯骨化症を伴った乾癬性関節炎と考えられた１例

税所幸一郎，吉松成博，吉田好志郎

宮崎医会誌，21　68-72，1997.

45) 重度の腎機能障害（Ccr ＜ 30ml/分）を合併した慢性関節リウマチ患者に対するミゾリビンの長期投与の経験

税所幸一郎，谷口博信，吉松成博

リウマチ科　18（６）613-618，1997.

46) 乳児性皮質骨増殖症の１例

税所幸一郎，吉松成博，谷口博信

医療，51(12) 598-602,1997.

47) 膝関節滑膜肉腫の１例

山本恵太郎，田島直也，桑原　茂，福田健二，黒木俊政整形外科，48（７）　865-867，1997.

48) 髄腔リーミングおよび遠位固定をおこなわないGamma nailによる大腿骨転子部の治療経験

谷口博信，蛯原啓文，長田浩伸，本部浩一，野辺達郎

骨折，19（１）95-99，1997.

49) Intramedullary Supracondylar Nail を用いた高齢者の大腿骨遠位部骨折の治療経験

谷口博信，蛯原啓文，長田浩伸，本部浩一，野辺達郎

骨折，19（１）316-321，1997.

50) 高校スポーツ選手のメディカルチェック－１－

黒木俊政，樋口潤一，寺原美保子，横山浩一郎

'96みやざきスポーツ科学委員会研究報告書，ｐ7-13，1997.

51) 高校スポーツ選手の整形外科的メディカルチェック－２－

樋口潤一，田島直也，園田典生，蛯原啓文，栗原典近，黒木俊政

'96みやざきスポーツ科学委員会研究報告書，ｐ6-13，1997.

52) 宮崎県高校スポーツ選手の運動生理学的研究

黒木俊政，楠悟，末藤誠八，中武寿裕，外山幸子，大町育代，
寺原美保子，松田正宏，横山浩一郎，樋口潤一，浜田光信
平成８年度職員自主研究グループ活動成果報告書，14-0～14-8，1997.

53) The Acetabular Rim Fracture A Variant of the Acetabular Rim Syndrome,

MAST J.W., MAYO K.A., CHOSA E., BERLEMANN U. and GANZ R.,
Seminars in Arthroplasty 8 (1) 97-101, 1997.

54) Secular Change on X-ray Findings of Judo players

HIGUCHI J., CHOSA E., TAJIMA N., SONODA N. and KUROKI T.
Jpn. J. Orthop. Sports Med., 1 (3) 23-30, 1997.

55) 脳性麻痺に伴う脊柱側彎と股関節脱臼

山口和正，渡辺信二，浜中秀昭，田爪陽一朗，田島直也
骨盤側傾，脊柱変形，12 (1) 54-57，1997.

56) 腰痛を来す整形外科的疾患

横山正昭
宮崎県内科医会誌，52 32-36，1997.

57) Acute popliteal artery occlusion after total knee arthroplasty

T. Ohira, T. Fujimoto, K. Taniwaki
Arch Orthop Trauma Surg. 116 429-430, 1997.

◆学会報告

1) DXAによるRAステロイド投与例の骨粗鬆の検討

石田康行，桑原　茂，帖佐悦男，谷口博信，園田典生，田島直也
第４回宮崎県リウマチのケア研究会．1997，1，宮崎．

2) 歩行不能RA患者に両側同時TKA を施行した２症例のリハビリテーション

奥野　直，内藤宗明，大森敬子，桑原　茂，金井純次，山口政一朗
第４回宮崎県リウマチのケア研究会．1997，1，宮崎．

3）RA足に対する人工足関節置換術の経験

谷口博信，税所幸一郎，吉松成博

第４回宮崎県リウマチのケア研究会．1997，１，宮崎．

4）腕相撲による上腕骨内側上顆骨折の１例

田爪陽一朗，田口　学，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，中川徳郎，永田高見

第17回宮崎県スポーツ医学研究会．1997，１，宮崎．

5）腓骨筋腱脱臼に対するDuVries 法の経験，

吉松成博，税所幸一郎，谷口博信，田代宏一

第17回宮崎県スポーツ医学研究会．1997，１，宮崎．

6）柔道選手の第５中足骨疲労骨折に対する吸収性スクリューの使用経験

前田和徳，田島直也，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一，河原勝博，黒木俊政

第17回宮崎県スポーツ医学研究会．1997，１，宮崎．

7）足舟状骨疲労骨折について

獅子目賢一郎，黒木隆男

第17回宮崎県スポーツ医学研究会．1997，１，宮崎．

8）ACL再建患者の筋力評価－筋力・筋断面積の関連について－

中村真由美，園田典生，樋口潤一，黒木俊政

第17回宮崎県スポーツ医学研究会．1997，１，宮崎．

9）高齢者における自己血貯血について

川野彰裕，帖佐悦男，柏木輝行，田島直也

第10回自己血輸血学会．1997，２，神戸．

10）ＭＸ－１人工股関節のＸ線像における検討

帖佐悦男，田島直也，柏木輝行，園田典生，松岡知己，石田康行

第６回ＭＸ人工股関節研究会．1997，３，岡山．

11) Three Demensional Finite Element Analysis of Lumbar Fusion. Conparison of Anterior and Posterolateral Fusion with or without Disc Degeneration

Totoribe K., Tajima N., Chosa E.

Spine Across The Sea 1997. 3, Hawaii.

12) 腎障害を合併した慢性関節リウマチ患者に対するミゾリビンの使用経験

税所幸一郎，谷口博信，吉松成博，花房明憲，田代宏一，桑原茂，田島直也

第13回九州リウマチ学会，1997，3，鹿児島.

13) 人工膝関節置換術後の寒冷冷却法の検討

金井純次，桑原　茂，山口政一朗，田島直也，税所幸一郎，谷口博信

第13回九州リウマチ学会．1997，3，鹿児島.

14) 胸椎部脊柱靭帯骨化症に対する後方徐圧術の治療成績

黒木浩史，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，鳥取部光司，作　良彦

第26回日本脊椎外科学会．1997，4，横浜.

15) 特発性側弯症における一期的前方・側方解離術の試み

久保紳一郎，田島直也，平川俊一，作　良彦，黒木浩史

第26回日本脊椎外科学会，1997，4，横浜.

16) 腰椎の動態解析（第一報：屈曲伸展時）－三次元有限要素法を用いて－

鳥取部光司，田島直也，平川俊一，帖佐悦男，黒木浩史，第26回日本脊椎外科学会，1997，4，横浜.

17) MRIから見たＲＡ頸椎の手術時期

桑原　茂，金井純次，田島直也，帖佐悦男

第41回日本リウマチ学会総会．1997，5，名古屋.

18) 成長期サッカー選手のスポーツ障害調査から見たＲＡ頸椎の手術時期

樋口潤一，田島直也，黒木俊政，帖佐悦男，園田典生，野中隆史

第23回日本整形外科スポーツ医学会，1997，5，東京.

19) 実業団柔道選手の手指関節傷害についての検討

園田典生，田島直也，帖佐悦男，樋口潤一

第23回日本整形外科スポーツ医学会，1997，5，東京.

20) 頸部脊柱管狭窄症のＸ線学的評価（身長との関係について）

川野彰裕，田島直也，久保紳一郎，鳥取部光司，松元征徳，黒木浩史

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

21) 腰椎後側方固定術の長期成績－10年以上経過例についての検討－

黒木浩史，田島直也，久保紳一郎，鳥取部光司，松元征徳，後藤啓輔

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

22) 陳旧性足関節外科外側靭帯損傷における関節包縫縮術の適応について

浪平辰州，伊勢紘平

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

23) DEXAによる踵骨，腰椎，大腿骨頸部骨塩量とBMI との関係

後藤啓輔，田島直也，帖佐悦男，川越正一，久保紳一郎，

鳥取部光司，黒木浩史

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

24) 手指骨に生じた骨膜性軟骨腫の２例

有住裕一，川越正一，蛯原啓文，深野木由姫，中村誠司，田島直也

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

25) 転移性骨腫瘍に対する骨接合術（セメント併用）の経験

前田和徳，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

26) 当科における人工骨頭置換術の成績について

石田康行，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，松岡知己

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

27) 人工股関節置換術の骨セメント充填度の検討

松岡知己，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，石田康行

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

28) 股関節の手術におけるModified Transgluteal Approachの経験

栗原典近，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，松岡知己，石田康行，

田島直也

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

29) 二分脊椎による外反踵足の歩行分析－床反力計等を用いた術前後の評価－

渡邊信二，山口和正，河原勝博，川越正一，田島直也

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

30) 術後回収式自己血輸血装置(CBCⅡ）の使用経験

飯干　明，長鶴義隆，柳園賜一郎，長田浩伸

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

31) 多数指切断に対する治療

中島英親，平野哲也，寺本憲市郎，加藤悌二，武田浩志，米満弘之

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

32) 鏡視下TFCC部分切除術の治療成績

平野哲也，中島英親，寺本憲市郎，米満弘之

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

33) 投球前後における肩関節MRI の変化

安藤　徹，市原正彬，田島直也，帖佐悦男，川越正一，小牧一麿，田辺龍樹

第93回西日本整形・災害外科学会，1997，６，北九州.

34) RA頸椎病変に対する後骨頭－胸椎固定術の問題点

久保紳一郎，田島直也，作　良彦，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔

第５回宮崎リウマチのケア研究会，1997，６，宮崎.

35) リウマチに対する多関節置換術後に生じた頑固な腰痛の２例

田爪陽一朗，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口　学，中川徳郎，仙波　圭

第５回宮崎リウマチのケア研究会，1997，６，宮崎.

36) RA膝関節手術におけるSubvastus approachの経験

田島卓也，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，松岡知己，石田康行，前田和徳，桑原　茂，田島直也

第13回宮崎県リウマチ研究会，1997，６，宮崎.

37) 人工関節に合併した骨折の治療経験

内田秀穂，森田信二，尾田朋樹

第13回宮崎県リウマチ研究会，1997，６，宮崎.

38) RA上肢リンパ性浮腫に対する滑膜切除術の経験

金井純次，桑原　茂，濱田浩朗

第13回宮崎県リウマチ研究会，1997，６，宮崎.

39) 腰痛検診の在り方－アンケート（直接検診を含む）実態調査より－

帖佐悦男，田島直也

第70回日本整形外科学会学術集会，1997，６，札幌.

40) HATCコーティング人工骨頭の臨床成績

柏木輝行，帖佐悦男，田島直也

第70回日本整形外科学術集会，1997，６，札幌.

41) A Radiographic Assessment of Periacetabular Osteotomy

Etsuo Chosa, Naoya Tajima, Reinhold Ganz, Teruyuki Kashiwagi

THE 8TH JAPANESE-KOREAN COMBINED ORTHOPAEDIC SYMPOSIUM, 1997, ７, Okayama.

42) 偽関節部横断骨切り術

渡辺　雄，大田博人，長田浩伸，谷畠　満，本部浩一，野中隆史

第23回日本骨折治療学会，1997，７，福岡.

43) 手関節痛を主訴に来院した尺側手根伸筋拘縮の一例

結城祥一，川越正一，蛯原啓文，深野木由姫，有住裕一，田島直也

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，７，宮崎.

44) 超音波踵骨骨量測定における測定部位について（第一報）

平部久彬，田島直也，帖佐悦男

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，７，宮崎.

45) 環軸椎不安定症および歯突起異常を呈したDown症候群の１手術例

栗原典近，田島直也，久保紳一郎，鳥取部光司，作　良彦，黒木浩史

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，７，宮崎.

46) 馬尾性勃起を呈した腰部脊柱管狭窄症の一例

川野彰裕，田島直也，久保紳一郎，作良彦，松元征徳，河野　立，
平川俊一

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

47) backet handle tearに類似した関節内索状物の一例

江夏　剛，田島直也，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一，柏木輝行，
松岡知己，前田和徳，石田康行，田島卓也

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

48) 人工膝関節置換術（TKA ）前後の歩行分析－床反力計等を用いた評価－

河原勝博，山口和正，渡邊信二，川越正一，帖佐悦男，柏木輝行，
園田典生，田島直也

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

49) 大腿骨顆部に発生した骨原発悪性リンパ腫の１例

内田秀穂，金井純次，桑原　茂，西川　清，岡村博道

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

50) Charnley型人工股関節全置換術後の反復性脱臼に対してWroblewski acetabular stabilizing wedgeを使用した１例

谷口博信，税所幸一郎，吉松成博

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

51) 当科に於ける小児上腕骨顆上骨折の治療結果に対する検討

大田博人，戸田　勝，工藤勝司，吉田好志郎

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

52) 当院における小児上腕骨顆上骨折の治療

田爪陽一朗，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口　学，中川徳郎，
仙波　圭

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

53) 小児上腕骨顆上骨折に対する手術例の検討

池田　勉，前原東洋，吉永一春，中川雅裕

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，7，宮崎.

54) 当科における小児肘関節周辺骨折の治療経験

柳園賜一郎，長鶴義隆，長田浩伸，黒沢　治

第34回宮崎整形外科懇話会，1997，７，宮崎.

55) 女子陸上長距離選手の脛骨過労性障害に関するＸ線学的検討

園田典生，田島直也，帖佐悦男，樋口潤一，前田和徳

第８回日本臨床スポーツ医学会学術集会，1997，８.

56) The Application of 3-S Instrumentaion System for Lumbar Spinal Fusion Naoya Tajima, Etsuo Chosa, Shinichiro Kubo, Hiroshi Kuroki

The 1st Swiss-Japan-Orthopaedic Conference, 1997,　8, Swiss.

57) 当院における小児肘周辺骨折の治療

川添浩史，黒田　宏，山口政一朗

第10回宮崎救急医学会，1997，８，小林.

58) Posterolateral Lumbar Fusion -Biomechanical Study and Clinical Results-

Naoya Tajima, Etsuo Chosa, Shinichiro Kubo, Koji Totoribe, Hiroshi Kuroki

1997 International Committee Meeting of SICOT, 1997, 10, Taipei.

59) 投球前後における肩関節ＭＲＩの変化

安藤　徹，田島直也，帖佐悦男，川越正一，小牧一麿，田辺龍樹

第12回日本整形外科学会基礎学術集会，1997，10，新潟.

60) 宮崎における地域リハビリテーションの現状－アンケート調査をもとにして－

鳥取部光司，田島直也，中村真由美，日高　隆

第20回宮崎リハビリテーション研究会，1997，10，宮崎

61) 脊椎悪性腫瘍に対する椎骨全摘出術（Total en bloc spondylectmy）の経験

後藤啓輔，田島直也，久保紳一郎，作　良彦，黒木浩史，松元征徳

第３回宮崎腫瘍治療研究会，1997，11，宮崎.

62) 各職種間における作業姿勢と腰痛について

松元征徳，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行，久保紳一郎，作　良彦，黒木浩史，後藤啓輔

第５回日本腰痛研究会，1997，11，東京.

63) 宮崎県における成長期サッカー選手のスポーツ傷害調査

樋口潤一，田島直也，園田典生，黒木俊政

第８回日本臨床スポーツ医学会学術集会，1997，11，東京.

64) 女子長距離選手の脛骨過労性障害に関するＸ線学的検討

園田典生，田島直也，帖佐悦男，樋口潤一，前田和徳

第８回日本臨床スポーツ医学会学術集会，1997，11，東京.

65) 投球前後における肩関節ＭＲＩの変化

安藤　徹，田島直也，園田典生，樋口潤一，田辺龍樹

第８回日本臨床スポーツ医学会学術集会，1997，11，東京,

66) セメントテクニックの違いによる大腿骨ステムの初期固定力の実験的検討

松岡知己，帖佐悦男，柏木輝行，園田典生，栗原典近，田島直也

第24回日本臨床バイオメカニクス学会，1997，11，幕張.

67) 腰椎固定における椎間関節固定の影響

鳥取部光司，田島直也，帖佐悦男，後藤啓輔

第24回日本臨床バイオメカニクス学会，1997，11，幕張.

68) 形状記憶合金による脊柱側弯の矯正に関する実験的研（第２報）

作　良彦，田島直也，久保紳一郎，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔

第31回日本側弯症学会，1997，11，長野.

69) 特発性側弯症における一期的前方・側方解離術の試み

久保紳一郎，田島直也，作　良彦，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔

第31回日本側弯症学会，1997，11，長野.

70) 股関節症に対する臼蓋形成術(Lance-Spitz変法）の成績と適応

長鶴義隆，柳園賜一郎，長田浩伸

第24回日本股関節学会，1997，11，横浜.

71) False Profile 像による股関節症のX線判定基準

帖佐悦男，田島直也，柏木輝行，園田典生，松岡知己，田島卓也，長鶴義隆

第24回日本股関節学会，1997，11，横浜.

72) THA大腿骨側セメント充填度の検討

柏木輝行，帖佐悦男，園田典生，松岡知己，前田和徳，江夏　剛，田島直也

第24回日本股関節学会，1997，11，横浜.

73) 仙骨全摘術におけるinstrumentation の経験－第２報－

黒木浩史，田島直也，久保紳一郎，鳥取部光司，作　良彦，松元征徳

第48回西日本脊椎研究会，1997，11，宮崎.

74) 膿疱症出現約30年目に関節症状を生じた掌蹠膿疱症性骨関節炎と考えられた一例

税所幸一郎，谷口博信，吉松成博

第４回南九州リウマチフォーラム，1997，11，熊本.

75) CP児の手術後の歩行変化－床反力計などによる評価－

渡邊信二，山口和正，川越正一，田島直也

第８回日本小児整形外科学会，1997，11，仙台.

76) 大腿骨転子部骨折に対するγ－nail法の不良例の検討

山口政一朗，黒田　宏，川添浩史，川越正一，谷口博信，田島直也

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

77) 刺突起縦割式頸部脊柱管拡大術における術前後の脊柱管面積の検討

濱田浩朗，田島直也，平川俊一，久保紳一郎，作　良彦，黒木浩史，松元征徳，河野　立

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

78) 女子陸上長距離選手のシンスプリントに関するX線学的検討

江夏　剛，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一，田島直也

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

79) 手関節痛を主訴に来院した尺側手根伸筋拘縮の一例

結城祥一，川越正一，蛯原啓文，深野木由姫，安藤　徹，有住裕一，田島直也

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

80) RA関節病変に対するメソトレキセート関節内注入法の試み

内田秀穂，桑原　茂，金井純次，田島直也，税所幸一郎，谷口博信

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

81) MRI所見から見たRA頸椎病変に対する後方固定術の効果

桑原　茂，金井純次，内田秀穂，田島直也

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

82) 足趾移植による指再建

中島英親，原田香苗，寺本憲市郎，武田浩志，平野哲也，米満弘之

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

83) 大腿骨内側顆特発性骨壊死のX線学的検討－変形性膝関節症との比較－

本荘憲昭，緒方公介，原　道也，城島　宏，山田昌登嗣，藤原明

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

84) 超音波踵骨骨量測定における測定部位について（第一報）

平部久彬，田島直也，帖佐悦男

第94回西日本整形・災害外科学会，1997，11，米子.

85) ACL再建患者の筋力評価　2　－筋力・筋断面積の関連について－

中村真由美，田島直也，園田典生，樋口潤一，黒木俊政

第10回九州スポーツ医・科学会，1997，12，福岡.

86) 超高齢者の大腿骨頸部骨折の予後の検討

川添浩史，黒田　宏，山口政一朗

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

87) 脂肪塞栓症候群の治療経験

黒田　宏，山口政一朗，川添浩史

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

88) 内分泌異常に続発した20歳の大腿骨頭すべり症の１例

森　治樹，酒井　健，森田信二，梶原秀彦，厳本哲矢

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

89) 脳性麻痺児の術後骨折

前田和徳，山口和正，渡邊信二，田島直也，川越正一

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

90) 胸腰椎破裂骨折に対するKaneda device を用いた前方除圧再建術の経験

池尻洋史，田島直也，久保紳一郎，作　良彦，黒木浩史，後藤啓輔，濱田浩朗，河野　立

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

91) 腰椎椎間関節に発生したsynovial cyst の１例

益山松三，田島直也，久保紳一郎，後藤啓輔，作　良彦，黒木浩史

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

92) 治療に難渋したmental retardationを伴った症候性後側弯症の一例

河野　立，田島直也，作　良彦，濱田浩朗，川野彰裕

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

93) 股関節周辺腫瘍切除術後の欠損に対する大腿後部皮弁の使用経験

安藤　徹，田島直也，帖佐悦男，川越正一，柏木輝行，園田典生，蛯原啓文，石田康行，江夏　剛，結城祥一，福田健二，坂本康典，末永　治，黒沢　治

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

94) 当院における高位脛骨骨切り術の術後成績－ＨＴＯ骨プレートでの短期成績－

河原勝博，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口　学，中川徳郎，仙波　圭

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

95) 当院における膝関節障害に対する外科的治療

黒沢　治，長鶴義隆，柳園賜一郎，長田浩伸

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

96) 変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術による治療経験

本部浩一，渡辺　雄，大田博人，長田浩伸，谷畠　満，野中隆史

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

97) 当科における内側型変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術の長期成績－術後10年以上経過例について－

園田典生，田島直也，帖佐悦男，柏木輝行，松岡知己，栗原典近，

田島卓也，江夏　剛，長鶴義隆，武内晴明

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

98) RA膝に対する高位脛骨骨切り術の経験

内田秀穂，金井純次，桑原　茂

第35回宮崎整形外科懇話会，1997，12，宮崎.

99) Gd-DTPA enhanced MRI in conservative treatment of Lumbar disc herniation

H. Komori, K. Shinomiya, Y. Yamaura, Y. Ykoyama

NORT AMERICAN SPINE SOCIETY SPINE ACROSS THE SEA, 1997, 3, Hawaii.

◆講　演　他

1）スポーツ傷害

黒木俊政

平成８年度厚生省健康運動指導者育成研修会，1997，１，宮崎.

2）スポーツによる脊椎傷害

田島直也

平成９年佐賀県整形外科医会，1997，２，佐賀.

3）ランニング障害とそのケア

田島直也

平成８年度全国高校陸上競技選抜合宿指導者研修会，1997，３，宮崎.

4）Natural History of Congenital Scoliosis The Risk Factors of Progression

Naoya Tajima

The 7th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1997, 5, Taiwan.

5）人体解剖学の基礎知識

黒木俊政

平成９年度身体障害者福祉担当者等研修会，1997，５，清武.

6）身体障害者福祉用具の基礎知識

黒木俊政

平成９年度身体障害者福祉担当者等研修会，1997，５，清武.

7）脊髄損傷の基礎と臨床

黒木俊政

平成９年度身体障害者福祉担当者等研修会，1997，７，清武.

8）四肢切断・関節離断

黒木俊政

平成９年度身体障害者福祉担当者等研修会，1997，９，清武.

9）身体障害に関する医学的知識

黒木俊政

平成９年度身体障害児者福祉施設直接処遇職員研修Ⅰ・Ⅱ，1997，９，宮崎.

10）特別講演（優秀演題賞）:Faux Profil像の意義－股関節における単純X線False profile view－

帖佐悦男

第12回日本整形外科学会基礎学術集会，1997，10，新潟.

11）スポーツにおける筋力１－スポーツにおける筋力特性－

黒木俊政

ＭＲＴ放送スポーツカウンセリング，1997，10，宮崎.

12）スポーツにおける筋力２－ウェイトトレーニングはなぜ必要か－

黒木俊政

ＭＲＴ放送スポーツカウンセリング，1997，10，宮崎.

13）スポーツにおける筋力３－肉離れの原因と対処法－

黒木俊政

ＭＲＴ放送スポーツカウンセリング，1997，10，宮崎.

14）スポーツとウォーキング

黒木俊政

ＭＲＴ放送スポーツカウンセリング，1997，10，宮崎.

15）小児の骨折

黒田　宏

宮崎市郡外科医会，199712，宮崎.

16）整形外科領域からみた理学療法士への期待－現状と展望－

田島直也

第７回（社）宮崎県理学療法士学会創立25周年記念学会，1997，12，宮崎.

17）パネルディスカッション：腰痛検診の在り方－アンケート（直接検診を含む）・実態調査より－

帖佐悦男，田島直也

第70回日本整形外科学会，1997.

18) Evaluation of the Acetabular Coverage of the Femoral Head

帖佐悦男

The 7th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1997.

19) 骨粗鬆症の予防

帖佐悦男

宮崎市寝たきり予防教室, 1997. 宮崎.

過去の同門会誌に未掲載の分です。

（文頭の番号はその年度に継続してつけています。）

◆学会発表

'96年分

122)骨盤傾斜を伴う脳性まひ児者の座位保持

山口和正，渡辺信二，田爪陽一朗，田島直也

第6回九州リハビリテーション医学会，1996,9.

◆講　　演

25）療育の目指すもの－みんなちがって、みんないい－

山口和正

第8回宮崎県小児保健学会，1996,7，宮崎.

26）障害の理解と介助

山口和正

全国心身障害児福祉財団家庭支援研究会，1996,8，宮崎

編集後記

同門会誌は皆様の温かいご理解とご協力で10号となりました。野球にたとえますと、7回ラッキーセブンを無事に守り抜いて同点、8回表張り切って攻撃に入るところ、サッカーでは、前半を1点リードで終わったところ、ゴルフではハーフを終わってイーブン、トライアスロン競技ですと、スイムを無事に終えたところでしょうか。とにもかくにも、ほっと一息ついたところです。しかし油断は禁物、ゲーム終了までしっかりと集中して、頑張らなければなりません。現代社会の人生ゲームは思わぬところに落とし穴や崖、クレバスが待ちかまえています。この困難な状況を独りで考え乗り越えて行くのはなかなか大変なことです。思いこみや勘違いで失敗をくり返し、目標を見失ってしまうことも多いのではないでしょうか。こんな時、詳しい地図やコンパスが有れば、どんなに助かることでしょう。同門会誌は、同門会員の経験と知識を集約した最高のナビゲーション機能を持った人生のコンパスと言えるものです。この10号記念誌にも仕事や人生の悩みや不安、また家族、友達との思い出や将来の夢が溢れています。大先輩の随筆にはいつもながらずっしりとした人生の重みを感じて心の落ちつきを取り戻せます。新入会員の皆様からの投稿は、若々しい活力に溢れ、同門会の未来の可能性の大きさを期待させてくれます。たかが10号といえど、内容をみるとなかなかどうして侮れないものなのです。この機会に1号から10号まで今一度目を通されてみて下さい。どの号にも思わず微笑んでしまうページが必ず有ります。同門先生方の生き方から、新しい目標を見つけることが出来るかもしれません。ところで同門会誌にとってゲーム終了と言える日はいつのことなのでしょうか。編集長に取りましては今一番の悩みです。ご存じの方は次号にご投稿下さい。今後とも同門会誌をよろしくお願い致します。

平成10年12月

編集長　押　川　紘一郎

宮崎医大整形外科学教室

同　門　会　誌

発　行　日　平成10年12月
発　行　者　宮崎医科大学整形外科学教室同門会
編集責任者　押　川　紘一郎
印　刷　所　身体障害者授産施設やじろべえ